

(案)

香取市学校等適正配置計画実施プラン 第一次改定版

～子どもたちのよりよい教育環境の向上を目指して～

平成27年 月

香取市教育委員会

香取市学校等適正配置計画実施プラン 第一次改定版

目 次

1	香取市学校等適正配置計画実施プランの見直しについて	1
	(1) 香取市学校等適正配置計画実施プランの位置づけ	1
	(2) これまでの取り組み	1
	(3) 新たに見えてきた課題	2
2	香取市の小中学校の現状について	5
	(1) 児童生徒数の推移	5
	(2) 学校施設の状況	6
3	香取市の学校等適正配置の基本指針	6
4	実施プラン推進に向けた基本課題	7
5	香取市における学校の適正規模と適正配置	8
6	適正規模及び小規模校の下限とメリット、デメリット	9
	(1) 適正規模	9
	(2) 許容できる小規模校の下限	9
	【小学校】	10
	【中学校】	10
	(3) 学校規模によるメリット・デメリット	11
7	香取市の学校再編の基準と考え方	14
	(1) 許容規模に基づく学校再編	14
	【小学校】	14
	【中学校】	14
	(2) 小中連携教育の推進	15
	(3) 既存の学校施設の有効利用	15
	(4) 統合に伴う通学方法について	15
8	市民協働による学校再編の推進	16
	(1) 「地域検討会議」「代表者会議」「準備委員会」の設置	16
	(2) 調整区域の設置	17
9	再編計画案について	18
	(1) 再編ブロック案	18

(2) 再編計画案の内容	19
【佐原ブロック】	19
【小見川ブロック】	24
【山田ブロック】	26
【栗源ブロック】	28
10 跡地活用の検討	29
11 学校再編の計画期間と推進方針	29

資料編

○各地域検討会議 検討結果報告書

・竟成小学校	1
・福田小学校	3
・神南小学校	4
・新島小学校 大東分校	5
・湖東小学校	6
・新島小学校	8
・大倉小学校	10
・小見川南小学校	12
・小見川北小学校 利北分校	14
・八都小学校	15
・八都第二小学校	17
・府馬小学校	18
・第一山倉小学校	20
・山倉小学校	23
・佐原第三中学校	25

○再編 P T A 懇談会の要望書

・佐原第三中学校	27
----------	----

○統計等資料

1. 香取市の将来人口の推移	29
2. 実施プラン策定時（平成 21 年度）の生徒数の推移と 現在（平成 26 年度）の推移	29
3. 実施プラン策定時（平成 21 年度）の児童数の推移と 現在（平成 26 年度）の推移	30
4. 平成 26 年度 香取市中学校 生徒数・学級数 推計	31
5. 平成 26 年度 香取市小学校 児童数・学級数 推計	32

○学校施設の状況	33
----------	----

1 香取市学校等適正配置計画実施プランの見直しについて

(1) 香取市学校等適正配置計画実施プランの位置づけ

香取市では、香取市総合計画（平成20～29年度）を策定し、「元気と笑顔があふれるまち 一人ひとりの市民が輝く 活みなぎる やすらぎの郷 香取」を目指すべきまちの姿とし、その実現に向け6つの分野ごとに基本目標を掲げています。「教育・文化」では、「歴史と文化に包まれて、心豊かな人を育むまちづくり」を目標としています。

このことを踏まえ、教育委員会では、この基本目標の達成のため、平成22年3月に香取市教育ビジョン（平成22～31年度）を策定し、香取市の教育の目指すべき方向性を示しています。そのなかでは、「明日を拓く、人間力を育てる学校教育の推進」が掲げられており、子どもたちが、幼児教育、小学校、中学校の各段階で十分な教育環境のもとで心身ともに健やかに学ぶことができるように、教育内容、施設、相談体制などを充実させるとともに、家庭・学校・地域との連携体制を強化していくとしています。

これを受け、平成22年7月に義務教育の充実（教育水準の維持向上）、教育環境の公平性（教育の機会均等）を目指すため「香取市学校等適正配置計画実施プラン」（以下「実施プラン」）を策定し、その実現に向けて市民協働で検討協議し、推進しています。

(2) これまでの取組み

実施プランでは、市民協働による学校再編の推進が定義されています。学校は、「家庭・地域・学校」の相互の連携協力のもとに運営されています。学校そのものは子どもたちの単なる学び舎だけでなく、地域のシンボリックな存在でもあり、精神的支柱の側面を持ち合わせています。このため、学校再編を市民協働で推進するため、保護者の代表者、地域住民の代表者、学校教育関係者で組織する地域検討会議等を設置し、公・民が一体となり実施プランの実現に向け検討協議を行っています。

このうち、検討協議が終了した地域検討会議から教育委員会へ、その検討結果をまとめた地域検討会議検討結果報告書の提出がありました。（詳細は、資料を参照）

そのなかでは、二つの学年を1学級に編制する複式学級^{※1}や、進行する少子化の影響での再統合への懸念、また、学校が無くなることに対する地域の疲弊を危惧する意見、小学校と同様に小規模化する中学校の問題などが挙げられています。

複式学級^{※1}・・・公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第3条

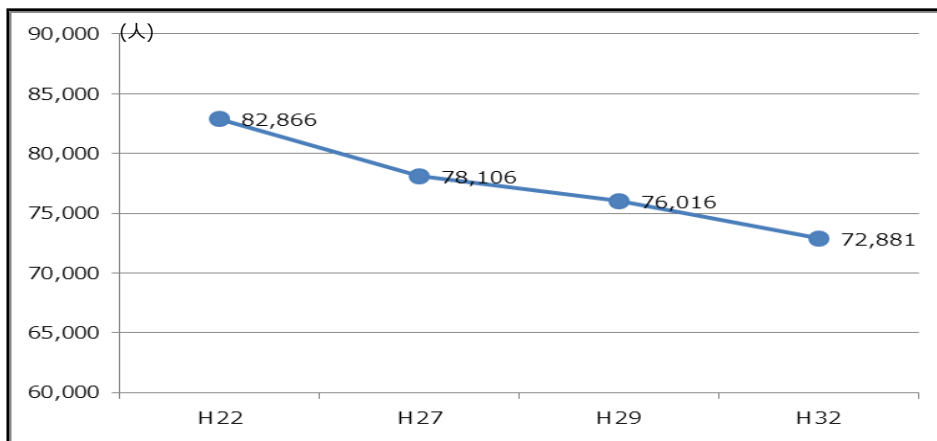
(3) 新たに見えてきた課題

香取市の人口は、平成22年の国勢調査結果では、82,866人でした。「香取市総合計画 後期基本計画」では、平成27年度には78,106人（平成22年比、▲5.7%）と8万人を割り、その後も減少を続け、平成29年度には76,016人（同、▲8.3%）平成32年度には72,881人（同、▲12.0%）となることが予測されています。

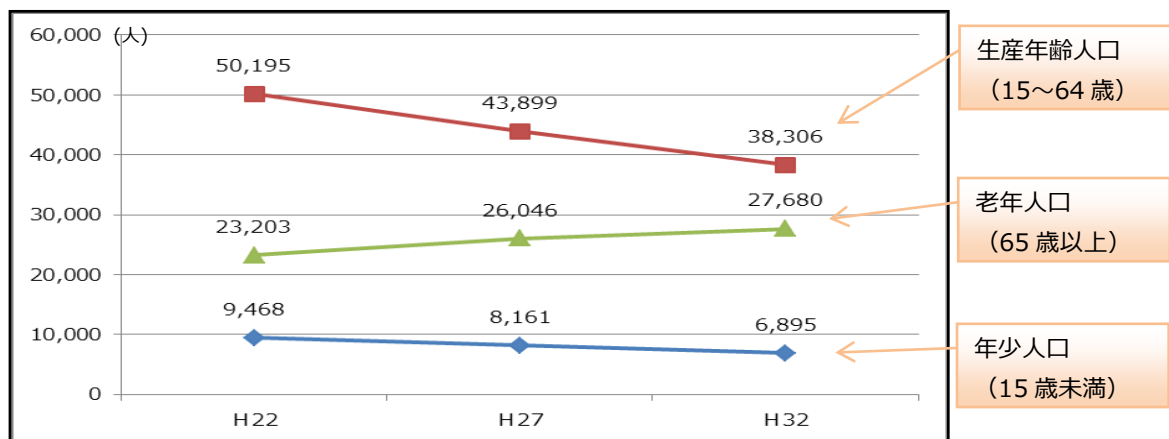
年齢構成の区分で見ると、平成22年度の年少人口（15歳未満）は、9,468人ですが、平成32年度には6,895人となり2,573人（平成22年比、▲27.2%）減少することが予測されています。

香取市では今後、毎年1,000人規模で人口が減少し、なかでも15歳未満の年少人口の減少が著しいことが分かります。

香取市の将来人口推計



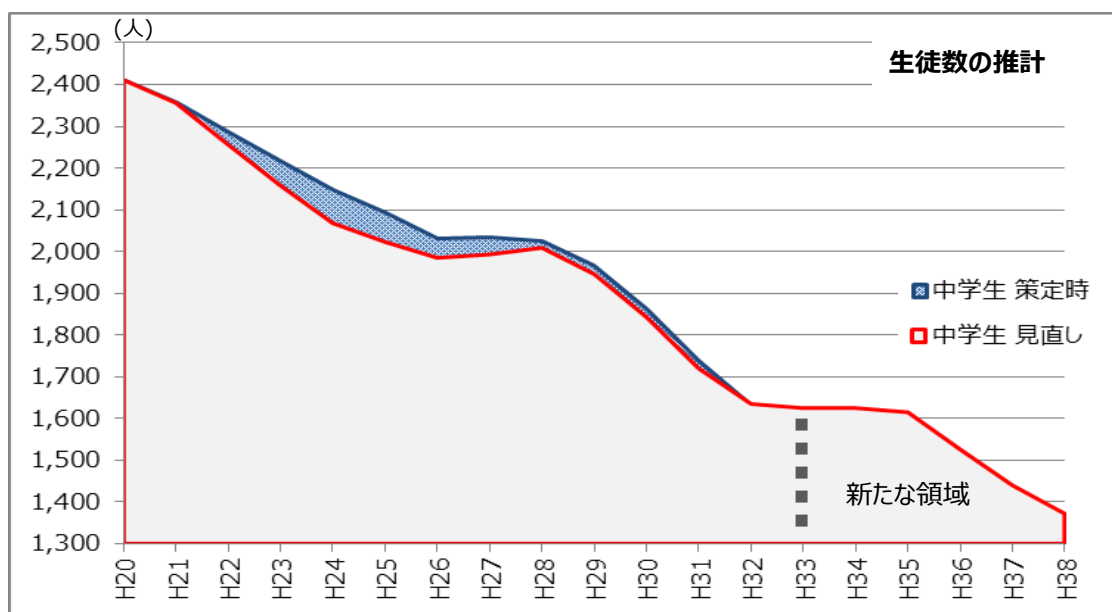
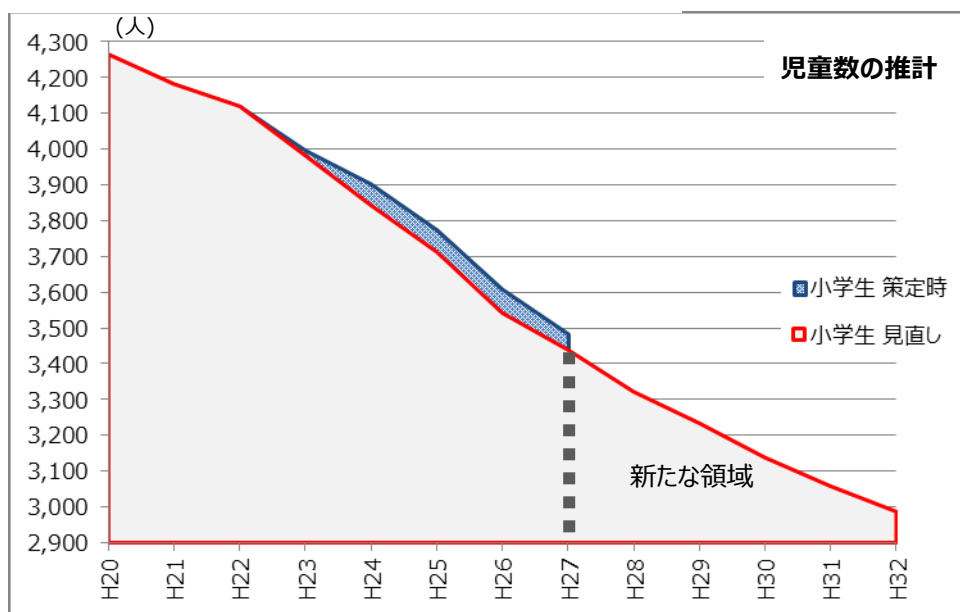
年齢構成3区分の人口推移



実施プランでは、平成20年4月2日から平成21年4月1日までの出生数(平成21年5月1日現在の住民基本台帳人口)を調査し、その子が小学校に入学する「平成27年度」までの児童数、また中学校に入学する「平成33年度」までの生徒数の実数推計を行いました。

実施プランを策定してから4年が経過し、直近の出生数(平成25年4月2日から平成26年4月1日まで)を基に推計をすることで児童数は「平成32年度」まで、生徒数は「平成38年度」までの実数推計ができます。

実施プラン策定時の児童生徒数の推計と今後の推計



実数推計でも、児童数は減少の一途をたどり、また生徒数も同様な傾向にあります。

今後も児童生徒数は減少し、小学校では複式学級の対象が常態化し、中学校では各学年 1 学級でクラス替えのできない学校が増えてきます。

学校は、一定規模の集団で活動することとおして、子どもたちに「確かな学力（知育）」「豊かな心（徳育）」「健やかな体（体育）」の生きる力をバランス良く育むことが重要です。このため、学校規模による教育環境の不均衡や地域格差等を是正し、市内どこでも同じ教育環境の下に、子どもたちに教育を受けさせることが必要です。

教育委員会では、これまで実施プランについて説明会や地域検討会議、アンケート調査の実施などとおし、市民から様々なご意見等を伺ってきました。主な意見としましては、進行し続ける少子化の中で、より大きな枠組みでの学校再編に期待する声が多くありました。それらの意見を実施プランに反映し、今後も引き続く少子化に対応できるよう、実施プランを見直し、第一次改定版を策定しました。

2 香取市の小中学校の現状について

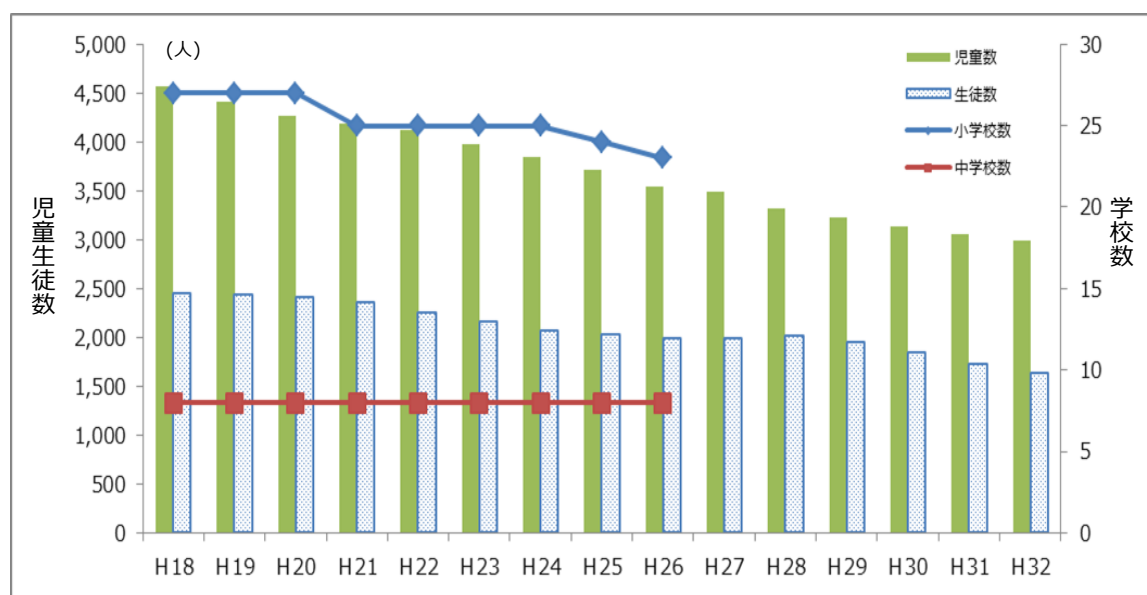
(1) 児童生徒数の推移

香取市内の平成26年4月1日現在の小中学校数は、小学校23校、中学校8校です。平成26年度当初の児童数は、3,542人で、生徒数は、1,985人です。今後の児童生徒数の推移を、平成25年4月2日から平成26年4月1日までの出生数をもとに推計すると、平成32年度には児童数は、2,987人に、生徒数は、1,635人になると予測できます。

平成26年度と比較すると、平成32年度には児童数が555人(▲15.7%)減少、生徒数が350人(▲17.6%)減少することになります。

また、国立社会保障・人口問題研究所が発表している「日本の市区町村別将来推計人口(平成25年3月推計)」によると、香取市における年少人口は、平成22年の9,463人から、平成32年には6,809人、平成42年には5,100人、更に平成52年には4,163人と、この30年間で56%減少すると予測されています。これは香取市に限ったことではなく、全国的な事象でもあります。

児童生徒数及び学校数の推移



(2) 学校施設の状況

学校は、児童生徒が一日の大半を過ごす施設であり、また、災害時の避難場所にもなります。香取市では、これまで耐震化の必要な学校施設については、計画的に耐震化事業を行い、平成25年度末の耐震化率は90.2%です。平成27年度末までに耐震化率100%を目指しています。

また、香取市内の学校施設は、昭和50年代に建築された建物が多く、建築後30年を超えています。よりよい教育施設環境とするために、平成27年度末までに幼稚園・小学校・中学校の全室に空調設備の完備を目指すとともに、計画的な大規模改修事業を行っています。（※小見川中学校の空調整備は、大規模改修に合わせ平成28年度を予定）

3 香取市の学校等適正配置の基本指針

小中学校の適正配置を行うための基本的な考え方として、次の3つの基本指針を掲げ、市民協働で学校再編を推進します。

(1) 義務教育の充実（教育水準の維持向上）

香取市における施設整備、教材教具、教育指導など、児童生徒の教育環境を整備し、義務教育の充実を図る観点から、学校規模の適正化を進めていく必要があります。

(2) 教育環境の公平性の確保（教育の機会均等）

学校規模の適正化及びそれを実現する学校配置は、学校規模による教育環境の不均衡や地域格差等の是正、義務教育の機会均等の観点からも検討が必要です。

(3) 学校運営の効率化と教育資源の有効活用

学校規模の適正化は、学校運営の効率性の向上や教育資源の再配分による有効活用の観点から検討が必要です。

4 実施プラン推進に向けた基本課題

(1) 学校の規模だけではなく「適正配置」からの検討の必要性

香取市の土地利用状況に鑑み、通学距離、小中学校の配置バランス、地域と通学区域との整合など、学校の規模だけではなく、地理的環境を視野に入れた学校の適正配置について重視する必要があります。

(2) 交流と連携の促進

(「小中連携教育」、「小中一貫教育^{※2}」、「学校・家庭・地域社会の連携」)

香取市の広大な面積から考え地域性、歴史性を尊重するとともに、集落の形成や地域コミュニティが積年の過程で醸成されていることを踏まえ、学校の適正配置には、「小中連携教育」更には「小中一貫教育」を視野に入れた「小・中学校間の交流連携の促進」、「学校・家庭・地域社会の連携」を図り、地域との一体感の醸成を考慮した「地域に根ざした学校づくり」を目指す必要があります。

(3) 将来を見据えた学校の適正配置

施設規模の適正化と学校の適正配置は、広域的な視点を持ち、将来の人口推移や土地利用を踏まえ、中長期的な計画行政に基づき、効率的かつ効果的に進める必要があります。

(4) 安全かつ機能的な通学区域の弾力化

香取市の面積が広域であることや、児童生徒の安全・安心を確保するため、「学校の規模」、「通学時間・通学距離」、「通学の安全」、「地域コミュニティとの関係」を考慮した、通学区域の更なる弾力化や通学手段（スクールバス等）の検討が必要です。

小中一貫教育^{※2}……小中一貫教育とは、学校経営方針や教育目標、目指す子ども像を小学校と中学校が一元化し、義務教育の9年間を児童生徒の発達段階に即して、小中一貫カリキュラムに基づく系統的、継続的な学習指導や生徒指導を行う教育。

5 香取市における学校の適正規模と適正配置

学校再編は、適正配置と適正規模の両面から検討し、推進することが必要です。国の適正規模^{※3}は、学校の規模を12～18学級が標準としています。適正配置^{※4}では、通学距離について小学校で概ね4キロメートル以内、中学校で概ね6キロメートル以内であることが適正としています。

香取市は、平成18年3月に市町村合併し、市域面積は262.31㎢で県内4番目の広さを有しています。学校は、旧市町村単位で建設されました。児童生徒数は、学校建設当時と比較して大きく減少しています。また、学区内の結びつきは強く、学校再編を考えるうえでは地域コミュニティにも配慮する必要があります。

学校再編は、学校の小規模化を解消し、児童生徒の教育環境をよりよいものにすることを目的に行います。このため、一定規模の児童生徒のなかで、互いに学びあい、競いあい、助けあいのできる環境づくりが必要です。このため、実施プランでは適正規模を優先し、学校再編を進めます。

しかしながら、適正規模を優先し、学校再編を進めることで児童生徒の通学距離が延伸します。この場合、国の適正配置基準を一つの判断基準とし、通学に要する時間も考慮し、公共交通機関等を含め通学手段について検討します。

また、適正配置を考えるうえでは、小学校と中学校の連携も重要なことです。小中連携教育は、学習内容や生活リズムに馴染めず、いじめや不登校が増える全国的な現象（中1ギャップ）の解消に効果があると言われていています。9年間の学びをより充実するためにも、小中学校間の連携を強化するため、中学校を核とした再編を推進します。

適正規模^{※3}・・・学校教育法施行規則第41条及び第79条による標準規模

適正配置^{※4}・・・義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条

6 適正規模及び小規模校の下限とメリット、デメリット

(1) 適正規模

① 小学校の適正規模

国が、適正としている学校規模は、1 学年 1 学級の単学級の解消を図り、クラス替えが可能な 1 学年 2 ～ 3 学級です。

基本的に学級数は、1 学級の児童数の標準^{※5}を 40 人（小学校 1 学年は 35 人）として各学年の学級数を決定し、学級数に応じて教職員の総数が決まる仕組みになっています。標準を 1 人でも超えた場合は、41 人で 2 学級、81 人ならば 3 学級となります。

千葉県では、少人数学級を推進しており、国の基準を弾力的に運用し、1 年生と 2 年生は 35 人学級、3 年生以降は 38 人学級を基準にしています。

香取市では、適正規模を豊かな人間性を育て多様な人間形成を図りやすくするためにも「各学年でクラス替えが可能な規模」と、捉えています。

② 中学校の適正規模

中学校は、教科担任制であり、各教科に専門の教員を確保することが必要となります。授業時数の多い 5 教科（国、社、数、理、英）については、複数の教員の配置が望ましく、生徒指導・部活動への対応や教員同士の切磋琢磨を図るためにも、一定の教員数が必要であるとされています。

国が、適正としている学校規模は、1 学年 4 ～ 6 学級で、1 学級の児童数の標準^{※5}を 40 人としています。

千葉県では、1 年生は 35 人学級、2 年生以降は 38 人学級を基準にしています。

香取市では、適正規模を国と同じく「1 学年 4 ～ 6 学級」と、捉えています。

(2) 許容できる小規模校の下限

本市においては、単学級であっても、各学校の努力や創意工夫により、教育水準を維持しながら学校運営がなされておりますが、今後も児童生徒数の減少が見込まれることなどを考慮して、許容できる小規模校の下限の考え方を次のようにします。

児童数の標準^{※5}……公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第 3 条

【小学校】

小学校では、1 学年 1 学級で適切な数の集団を編制できる学級規模が維持されるならば、少人数学級としての利点を生かし、教育環境のマイナス面を小さくすることは考えられます。しかし、様々な教育活動を考えた場合、少なくとも 1 学級に 20 人程度（4 人×5 グループ）の児童数が望ましいと考えます。

よって、小学校の許容できる小規模校の下限は、各学年 1 学級の 6 学級で、児童数は 120 人を超える程度とします。（各学年 1 学級×6 学年×1 学級 20 人程度≒120 人を超える程度）

【中学校】

中学生においては、この時期は大人になる過渡期にあたり、たくさんの人々と接し、仲間と切磋琢磨しながら、多くの体験を通して成長する場が必要です。そのため、生徒の自立を促進し、たくましく生きる力を育成する上では、集団の固定化はできるだけ避けなければなりません。また、専門教科数以上の教職員数の確保を考え、中学校の許容できる小規模校の下限は、クラス替えができる各学年 2 学級の 6 学級以上とします。

国・県の 1 学級の適正規模

小学校の場合

区分	1 学級の児童数		
	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年以降
国	35人以下	40人以下	
千葉県	35人以下		38人以下

中学校の場合

区分	1 学級の生徒数		
	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
国	40人以下		
千葉県	35人以下	38人以下	

香取市の小規模校の下限

小学校	1 学年の児童数は 20 人程度 学校規模は 120 人を超える程度	中学校	学校規模は各学年 2 学級以上
-----	---------------------------------------	-----	-----------------

国と香取市の小中学校の適正規模の考え方

学校規模	過小規模	小規模	統合の場合の適正規模		大規模
			適正規模		
小学校(学級数)	1～5	6～11	12～18	19～24	25～30
中学校(学級数)	1～2	3～11	同上	同上	同上
香取市の規模の考え方		下限規模 ※中学校の下限規模は、6 学級	適正規模	上限規模	

(3) 学校規模によるメリット・デメリット

学校教育を行なう上での学校規模は学習面、生活面と教育指導面などに様々なメリット、デメリットが生じます。

小規模校の場合、児童生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導ができるというメリットが挙げられますが、これらのメリットは小規模校でなければ達成できないというわけではなく、一定規模の学校においても習熟度別教育や少人数指導により可能となります。

また一方で、様々な集団の編成や多様な学習活動の展開が困難となる場合が発生し、集団の中で切磋琢磨する機会が少なくなるというデメリットもあります。

大規模校の場合、多くの友だちや教師にめぐり合え、人間関係が豊かになることや活気ある学校経営が行なえるなどのメリットが挙げられますが、一方で、児童生徒の増加に伴い、少人数指導を行なう際の教室の確保や体育館、校庭などの施設面に余裕がなくなり、教育活動に制約を生じるデメリットがあります。

これらのことから学校を一定の規模とすることにより、子どもたちの教育効果をより高められるものと考えます。

香取市の現状では、義務教育における教育の機会均等、教育水準の維持・向上を図る上では、過小規模校・小規模校の課題を解消していくことが必要になります。

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
【学習面】	児童・生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 1 学年 1 学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。	全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
	学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。	運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 児童・生徒数、教職員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。	学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
		部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	
【生活面】	児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。	クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。	学年内・異学年間の交流が図りにくい。
	児童・生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。

【学校運営面・財政面】	<p>全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</p> <p>学校が一体となって活動しやすい。</p>	<p>教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行っていく。</p> <p>学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・切磋琢磨等が行っていく。</p> <p>一人に複数の校務分掌が集中しやすい。</p> <p>教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。</p>	<p>教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行やすい。</p> <p>学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・切磋琢磨等が行やすい。</p> <p>校務分掌を組織的に行いやすい。</p> <p>出張、研修等に参加しやすい。</p>	<p>教職員相互の連絡調整が図りにくい。</p>
	<p>施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。</p>	<p>子ども一人ひとりにかかる経費が大きくなりやすい。</p>	<p>子ども一人ひとりにかかる経費が小さくなりやすい。</p>	<p>特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。</p>
【その他】	<p>保護者や地域社会と連携が図りやすい。</p>	<p>P T A 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。</p>	<p>P T A 活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。</p>	<p>保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。</p>

出典：中央教育審議会初等中等教育分科会

小中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会資料

7 香取市の学校再編の基準と考え方

(1) 許容規模に基づく学校再編

【小学校】

① 複式学級の解消

複式学級とは、引き続き二つの学年の児童数が16人以下（1年生を含む場合は、8人以下）となると、二つの学年で一人の教員の配置になります。複式学級となる場合、教育上の課題は大きいとされています。平成32年度までに、複式学級となる学校は、福田小・湖東小^{※注}・大倉小・小見川南小・八都第二小^{※注}・山倉小^{※注}の6校が見込まれます。

このため、許容規模以上の学校にするため、周辺校と再編統合します。

(※注) 湖東小と新島小は、平成27年4月に統合

八都第二小と山倉小は、八都小、府馬小、第一山倉小と平成31年4月に統合

(5校を1校に統合)

② 許容規模の確保

平成32年度までに、下限規模の120人を下回る学校は、北佐原小・竟成小・福田小・香取小・神南小・瑞穂小・新島小・津宮小・大倉小・小見川東小・小見川南小・八都小・八都第二小・府馬小・第一山倉小・山倉小の16校が見込まれます。

このため、許容規模以上の学校とするため、瑞穂小学校以外は周辺校と再編統合を進めます。

瑞穂小学校は、平成32年度に初めて120人を下回る見込みであるため、当分の間、再編統合は行わずに今後の児童数の動向を注視し、許容規模の確保が継続的に困難と見込まれる場合は、再編統合を検討します。

【中学校】

③ 複式学級の解消

中学校の複式学級は、引き続き二つの学年の生徒数が8人以下となると、複式学級となります。平成38年度までに、複式学級となる中学校はありません。

④ 許容規模の確保

平成38年度までに、許容規模に満たない学校は、香取中、佐原第三中^{※注}、新島中、栗源中の4校が見込まれます。このため、許容規模を確保するため、栗源中学校以外は周辺校と再編統合を進めます。

栗源中学校については、現在、栗源小学校との小中連携教育のモデル校として、コミュニティスクール^{※6}の指定を行っています。この成果について検証し、今後の生徒数の推移に注視しながら、再編統合は将来的な検討課題とします。

(※注) 佐原第三中は、平成28年4月に佐原中へ統合

(2) 小中連携教育の推進

今日、学習意欲の低下や生活・学習習慣の未定着、社会体験・自然体験の不足、不登校など様々な教育上の問題が指摘されており、香取市の児童生徒も例外ではありません。

このような問題の解決には、義務教育9ヵ年においてできるだけ早期からの規則正しい生活習慣や自主的に学習する習慣の確立、より長いスパンでの児童生徒理解に基づく個に応じた指導の一層の充実、中1ギャップの解消、交流活動の充実等、小中学校の連携による取組の推進が急務です。

また、連携を推進、強化していくことによって、小中一貫教育の導入については、国の動向に着目し慎重に検討していきます。

① 中学校区ごとに、円滑な小中学校の接続や日常の連携等、小中連携教育のあり方を探り、義務教育9ヶ年を見据えた教育課程の立案や授業改善、交流活動の推進等に取組みます。

② 小学校から同じ中学校へ進学できるように、段階的に再編していきます。

(3) 既存の学校施設の有効利用

効率的な学校再編を実施するため、改修・増築等により既存学校施設を統合校として有効利用します。

ただし、統合後の規模や立地状況により、新設を検討する場合があります。

(4) 統合に伴う通学方法について

国の適正配置では、通学距離を小学校にあつては概ね4キロメートル以内、中学校にあつては概ね6キロメートル以内としています。これを基準に統合に伴い、遠距離通学となる場合は、公共交通等の利用を含め、スクールバス等の通学手段を検討します。

コミュニティスクール（学校運営協議会）^{※6}・・・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5

8 市民協働による学校再編の推進

(1) 「地域検討会議」「代表者会議」「準備委員会」の設置

香取市では、学校、家庭、地域の相互の連携協力による学校教育を推進しています。学校再編についても、地域、保護者、学校が連携し、「地域に根ざした学校づくり」を目指すため、地域、保護者、学校等の代表者で構成する組織を設置し、公・民が一体となり市民協働で検討し、円滑に推進します。

① 地域検討会議

学校区単位の保護者の代表者・地域の代表者・学校教育関係者で組織し、学校再編について検討協議を行い、地域の意向をまとめます。

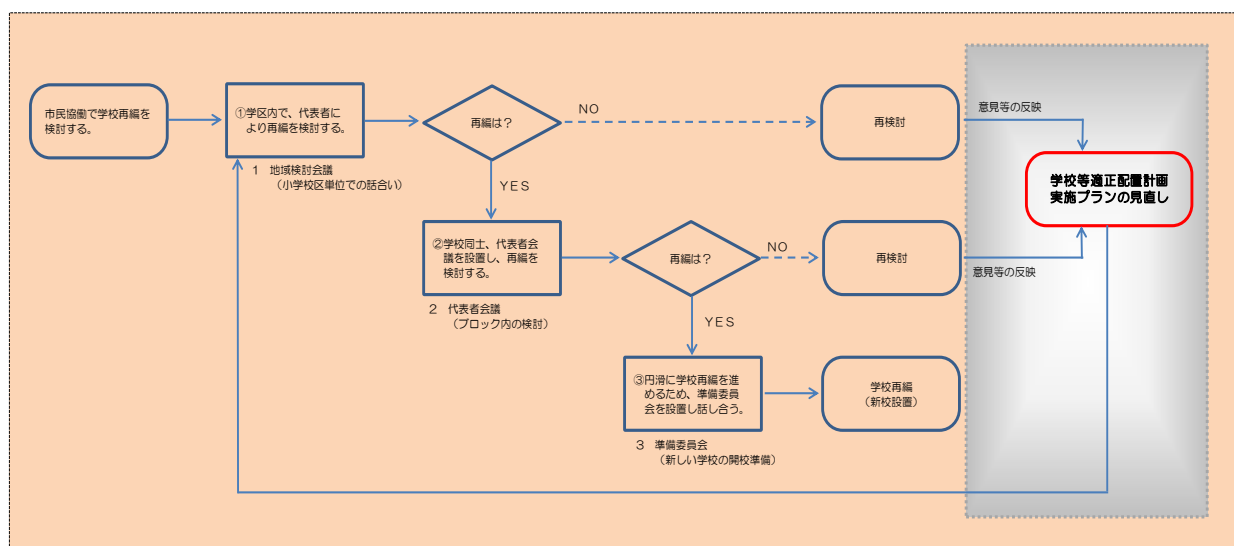
② 代表者会議

地域検討会議で学校再編の合意形成が得られた場合、統合する学校の代表者で、「統合の時期」「学校の名称」「校歌・校章」「スケジュール等」の『基本的事項』について協議を行い決定します。

③ 準備委員会

代表者会議で決定された『基本的事項』に基づき、準備委員会を設け、具体的な「通学方法」「安全対策」「学校用品（体操服、上履き等）」「PTA組織」「記念式典」「教育課程」などの再編にかかる必要分野ごとの部会により、円滑な学校再編に向けた話し合いを行います。

市民協働による学校再編の進め方のイメージ図



(2) 調整区域の設置

地域コミュニティや児童生徒の通学の安全に配慮する必要がある区域については、地域の実情に即し、弾力的な通学区域の運用を行う調整区域を設置します。

調整区域では保護者の希望で、特に就学校の希望理由を問われることなく、教育委員会への申出により、「指定校」^{※7}以外にあらかじめ指定された「許可校」に就学を可能とします。

指定校^{※7}…… 学校教育法施行令第5条第2項

9 再編計画案について

(1) 再編ブロック案

市民協働で学校再編を進めてきたなかで、引き続き少子化に対応するため、再編ブロックの見直しが必要となりました。これは、香取市内8つの中学校を核としたブロック（A～H）に区分し、小中連携教育を推進してきましたが、その核となる中学校の小規模化が顕著となり、中学校の再編統合も小学校と同様に喫緊の課題となりました。

このため、香取市の学校等適正配置の基本指針と香取市の学校再編の基準と考え方に基づき、再編ブロック案を次のとおりとします。

【再編ブロック案】

ブロック	区分	再編後の学校の位置	学校名	進学先 (連携を図る中学校)
佐原	中学校	佐原中	〈佐原中、香取中、佐原第三中、新島中〉	
		佐原第五中	佐原第五中	
	小学校	佐原小	佐原小	佐原中
		北佐原小	北佐原小	
		新島小	〈湖東小、新島小〉	
		竟成小	竟成小	
		●佐原第三中	〈福田小、神南小〉	
		●香取中	〈香取小、津宮小、大倉小(水郷団地は除く)〉	
		東大戸小	東大戸小	
	瑞穂小	瑞穂小	佐原第五中	
小見川	中学校	小見川中	小見川中	
	小学校	小見川中央小	〈小見川中央小、小見川南小〉	小見川中
		小見川東小	小見川東小	
		小見川西小	小見川西小	
	小見川北小	〈小見川北小、大倉小の一部(水郷団地)〉		
山田	中学校	山田中	山田中	
	小学校	●山田中※	〈八都小、八都第二小、府馬小、第一山倉小、山倉小〉	山田中
栗源	中学校	栗源中	栗源中	
	小学校	栗源小	栗源小	栗源中

●印は、中学校施設を活用

<>内は、再編する学校名

※山田ブロックは、中学校の位置に設置

(2) 再編計画案の内容

【佐原ブロック】

中学校数 5校 ⇒ 2校 △3校
 小学校数 12校 ⇒ 8校 △4校

《中学校》

① 佐原中学校、新島中学校、佐原第三中学校、香取中学校の再編

新島中学校及び佐原第三中学校は、過小規模校で単学級化しており、今後もこの状況が続く見込みです。

新島中学校は、将来にわたり再統合の懸念のない、近隣の佐原中学校へ統合し、過小規模校を解消します。

佐原第三中学校は、平成28年4月に佐原中学校へ統合します。

香取中学校は、今後も生徒数は減少する傾向で、単学級化が進み過小規模校となります。このため、近隣の佐原中学校へ統合し、過小規模校を解消します。

② 佐原第五中学校の再編

佐原第五中学校は、平成38年度まで全学年でクラス替えのできる規模（許容規模）で推移することから、統合は行いません。ただし、今後の生徒数の動向を注視し、許容規模の確保が、継続的に困難と見込まれる場合は、再編統合を検討します。

○佐原ブロックの中学校の生徒数の推計

学校名	区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
佐原中	生徒数	540	542	663	632	570	530	491	507	523	506	455	416	429
	学級数	15	16	19	19	17	16	15	16	16	14	13	13	13
香取中	生徒数	140	135	141	129	123	124	115	109	106	114	100	91	91
	学級数	5	5	6	6	5	5	5	5	4	4	4	3	3
佐原第三中	生徒数	82	94	平成28年4月 佐原中学校へ統合										
	学級数	3	4											
新島中	生徒数	72	69	70	78	87	69	66	58	62	61	59	64	59
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
与倉・観音・鳥羽	生徒数		8	24	41	42	40	36	31	30	26	27	24	20
	学級数													
佐原中計 (統合後)	生徒数		848	898	880	822	763	708	705	721	707	641	595	599
	学級数		24	26	26	24	22	21	21	21	20	19	17	17
佐原第五中	生徒数	203	198	214	220	218	192	190	179	173	173	171	159	137
	学級数	6	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6

※ は、単学級が含まれる年度の学級数

《小学校》

③ 佐原小学校は、国の基準において既に大規模校であり、周辺校との統合は行いません。

④ 北佐原小学校、湖東小学校、新島小学校の再編

北佐原小学校、新島小学校、湖東小学校の児童数は、いずれも120人以下であり、許容規模を下回っています。

湖東小学校と新島小学校は、平成27年4月に新島小学校の位置に、新生「新島小学校」として統合することを決定していますが、平成29年度以降児童数は、120人以下となり許容規模を下回る見込みです。このため、今後の児童数の動向を注視し、許容規模の確保が継続的に困難と見込まれる場合は、北佐原小学校との統合を検討します。

⑤ 竟成小学校の再編

竟成小学校は、平成23年度の地域検討会議で「現時点では、再編統合は時期尚早」との検討結果をまとめています。児童数は、平成26年度から120人以下であるが、今後の児童数の動向を注視し、許容規模の確保が継続的に困難と見込まれる場合は、近隣小学校との統合を検討します。

小中連携教育を推進するなかで、竟成小学校からの複数の中学校への進学を解消するため、通学の利便性を考慮し、再編校の進学先を佐原中学校とします。

⑥ 福田小学校、神南小学校の再編

福田小学校、神南小学校の児童数は、いずれも120人以下であり、許容規模を下回っています。このため、地理的にも近接しているこの二校を再編統合し、許容規模を確保します。再編校の位置は、既存学校施設の有効活用を図ることから、佐原第三中学校跡地とします。

⑦ 香取小学校、津宮小学校、大倉小学校の再編

香取小学校、津宮小学校、大倉小学校の三校の児童数は、いずれも120人以下であり、許容規模を下回っています。このため、地理的にも近接しているこの三校を再編統合し、許容規模を確保します。再編校の位置は、既存学校施設の有効活用を図ることから、香取中学校跡地とします。

津宮小学校の通学区域の一部（津宮十区）と大倉小学校の通学区域の一部（大倉新田）については、小学校の再編状況に合わせて、統合について検討します。

大倉小学校の通学区域の一部（水郷団地）は、徒歩通学が可能な小見川北小学区に編入します。ただし、地域コミュニティ等に配慮し、統合校にも通える調整区域とします。

⑧ 東大戸小学校、瑞穂小学校の再編

瑞穂小学校は、平成32年度から120人以下となります。東大戸小学校の児童数は、平成32年度までは120人以上を有します。今後の児童数の動向を注視し、二校の統合を視野に入れながら、佐原第五中学校との小中一貫教育の可能性については、国の動向に着目し、慎重に検討していきます。

○佐原ブロックの小学校の児童数の推計

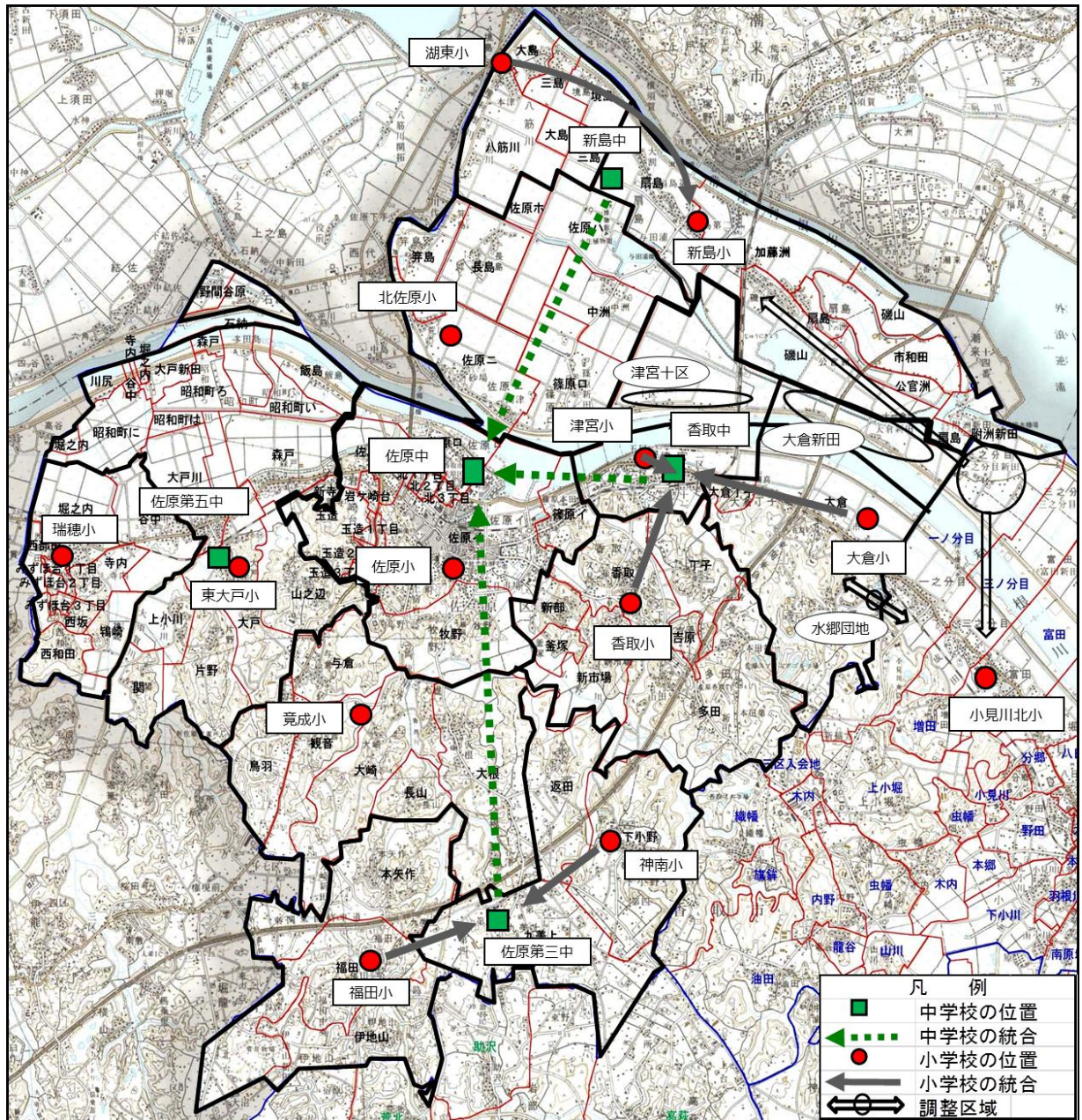
学校名	区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
佐原小	児童数	841	823	798	761	737	724	730	
	学級数	26	26	25	24	23	22	22	
新島小	児童数	81							
	学級数	6							
	湖東小	児童数	47	平成27年4月 湖東小と新島小が統合					
		学級数	6						
新生「新島小」	児童数		129	120	114	110	116	109	
	学級数		6	6	6	6	6	6	
北佐原小	児童数	116	109	100	87	75	76	70	
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	
竟成小	児童数	117	107	106	99	95	84	73	
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	
統合小学校	福田小	児童数	68	59	61	60	62	64	57
		学級数	6	5	5	5	6	6	6
	神南小	児童数	92	85	84	78	72	64	62
		学級数	6	6	6	6	6	6	6
	統合小学校	児童数		144	145	138	134	128	119
		学級数		6	6	6	6	6	6
統合小学校	香取小	児童数	82	79	91	98	89	97	106
		学級数	6	6	6	6	6	6	6
	津宮小	児童数	71	71	65	66	60	54	55
		学級数	6	6	6	6	6	6	6
	大倉小	児童数	74	65	62	54	49	38	36
		学級数	6	6	5	5	5	4	5
	統合小学校	児童数		215	218	218	198	189	197
		学級数		9	10	10	7	6	6
東大戸小	児童数	165	167	150	160	146	144	151	
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	
瑞穂小	児童数	149	142	133	132	136	130	113	
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	

※大倉小の水郷団地地区は、小見川北小へ編入

※ は、複式学級が含まれる年度の学級数

平成26年度は、増置教員等により複式学級を解消

○佐原ブロック再編案図



【小見川ブロック】

中学校数 1校 ⇒ 1校
小学校数 5校 ⇒ 4校 △1校

《中学校》

- ① 小見川中学校は、実数推計の可能な平成38年度まで国の適正規模であるため、再編統合は行いません。

○小見川ブロックの中学校の生徒数の推計

学校名	区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
小見川中	生徒数	585	591	588	578	544	517	493	512	491	499	467	457	401
	学級数	17	18	18	18	16	15	15	16	15	14	14	13	12

《小学校》

② 小見川中央小学校、小見川南小学校の再編

小見川南小学校の児童数は、120人以下であり、許容規模を下回っています。今後も複式学級が常態化することが見込まれます。このため、小見川南小学校は、将来にわたり再統合の懸念のない、小見川中央小学校へ統合し、適正規模とします。

③ 小見川東小学校の再編

小見川東小学校の児童数は、120人以下であるが、今後の児童数の動向を注視し、許容規模の確保が継続的に困難と見込まれる場合は、小見川中央小学校との統合を検討します。

④ 小見川西小学校は、許容規模の確保が見込まれることから、統合は行いません。

⑤ 小見川北小学校は、許容規模の確保が見込まれることから、統合は行いません。

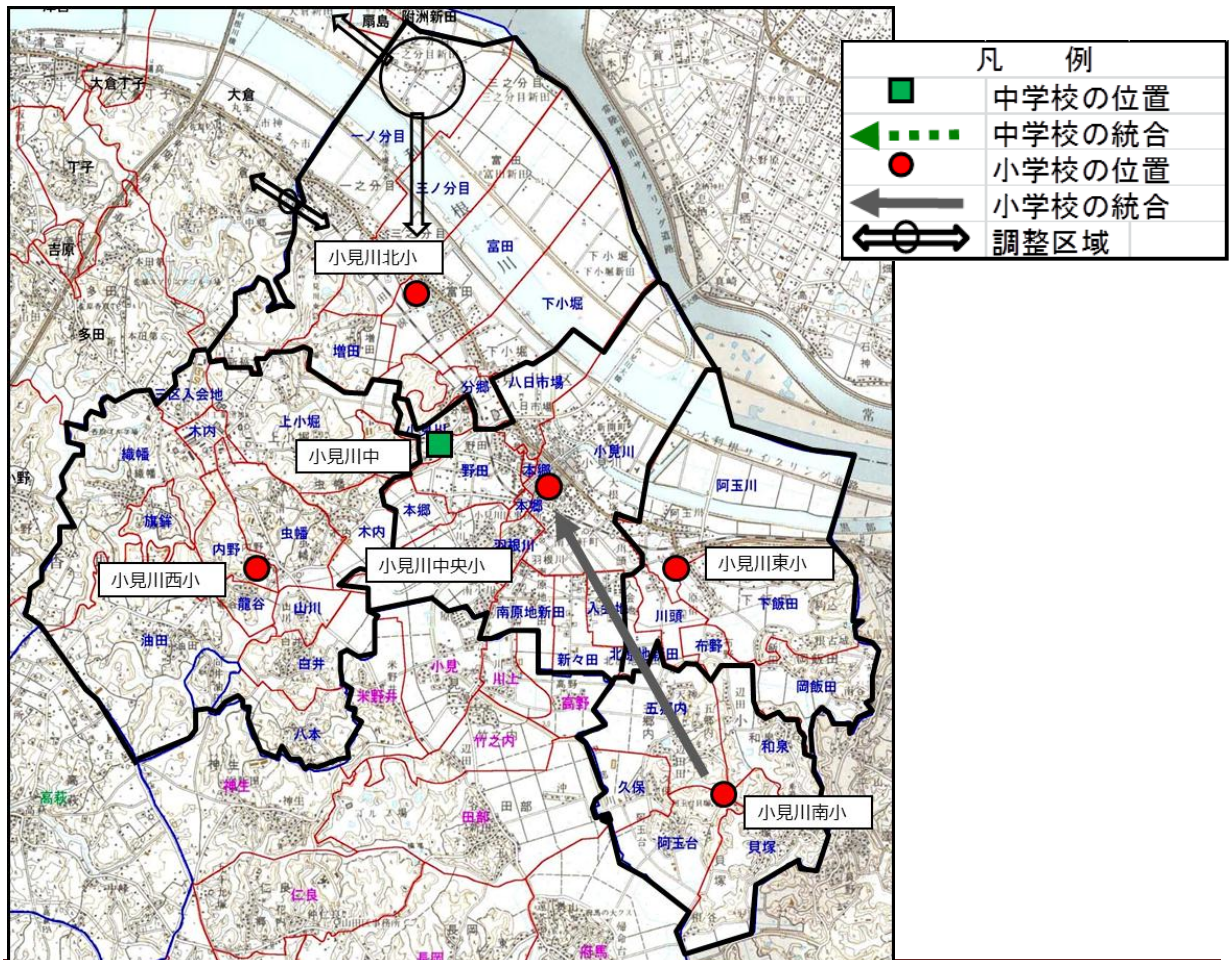
大倉小学校の通学区域の一部（水郷団地）は、徒歩通学が可能な小見川北小学区に編入します。ただし、地域コミュニティ等に配慮し、香取小学校・津宮小学校・大倉小学校の統合校にも通える調整区域とします。

○小見川ブロックの小学校の児童数の推計

学校名	区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
小見川中央小	児童数	506	506	476	459	445	429	420
	学級数	17	17	16	16	15	13	13
小見川南小	児童数	54	60	59	61	62	53	45
	学級数	6	5	5	6	6	6	5
小見川中央小計 (統合後)	児童数		566	535	520	507	482	465
	学級数		18	18	18	18	17	15
小見川東小	児童数	107	105	100	103	102	106	98
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
小見川西小	児童数	180	170	167	164	170	162	148
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
大倉小の一部	児童数		2	3	3	4	4	6
	学級数							
小見川北小	児童数	217	211	201	202	197	195	189
	学級数	8	7	6	7	7	6	6
小見川北小計 (統合後)	児童数		213	204	205	201	199	195
	学級数		8	7	7	7	6	6

※ は、複式学級が含まれる年度の学級数
 平成26年度は、増置教員等により複式学級を解消

○小見川ブロック再編案図



【山田ブロック】

中学校数 1校 ⇒ 1校

小学校数 5校 ⇒ 1校 △4校

《中学校》

- ① 山田中学校は、実数推計の可能な平成38年度まで、許容規模の確保が見込まれることから、再編統合は行いません。

○山田ブロックの中学校の生徒数の推計

学校名	区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
山田中	生徒数	267	270	243	213	206	194	187	196	184	185	185	168	169
	学級数	9	9	8	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6

《小学校》

- ② 八都小学校、八都第二小学校、府馬小学校、第一山倉小学校、山倉小学校の再編

山田地域内の小学校の児童数は、いずれも120人以下であり、許容規模を下回っています。特に、八都第二小学校及び山倉小学校は、複式学級が常態化する見込みです。このため、将来にわたり学校再編の必要が生じないよう、平成31年4月に山田地域内の小学校5校を一つに再編し、適正規模校とします。再編校の位置は、小中学校の連携が推進しやすい山田中学校の位置とします。また、将来的な課題として、小中一貫教育の導入については、国の動向に着目し、慎重に検討していきます。

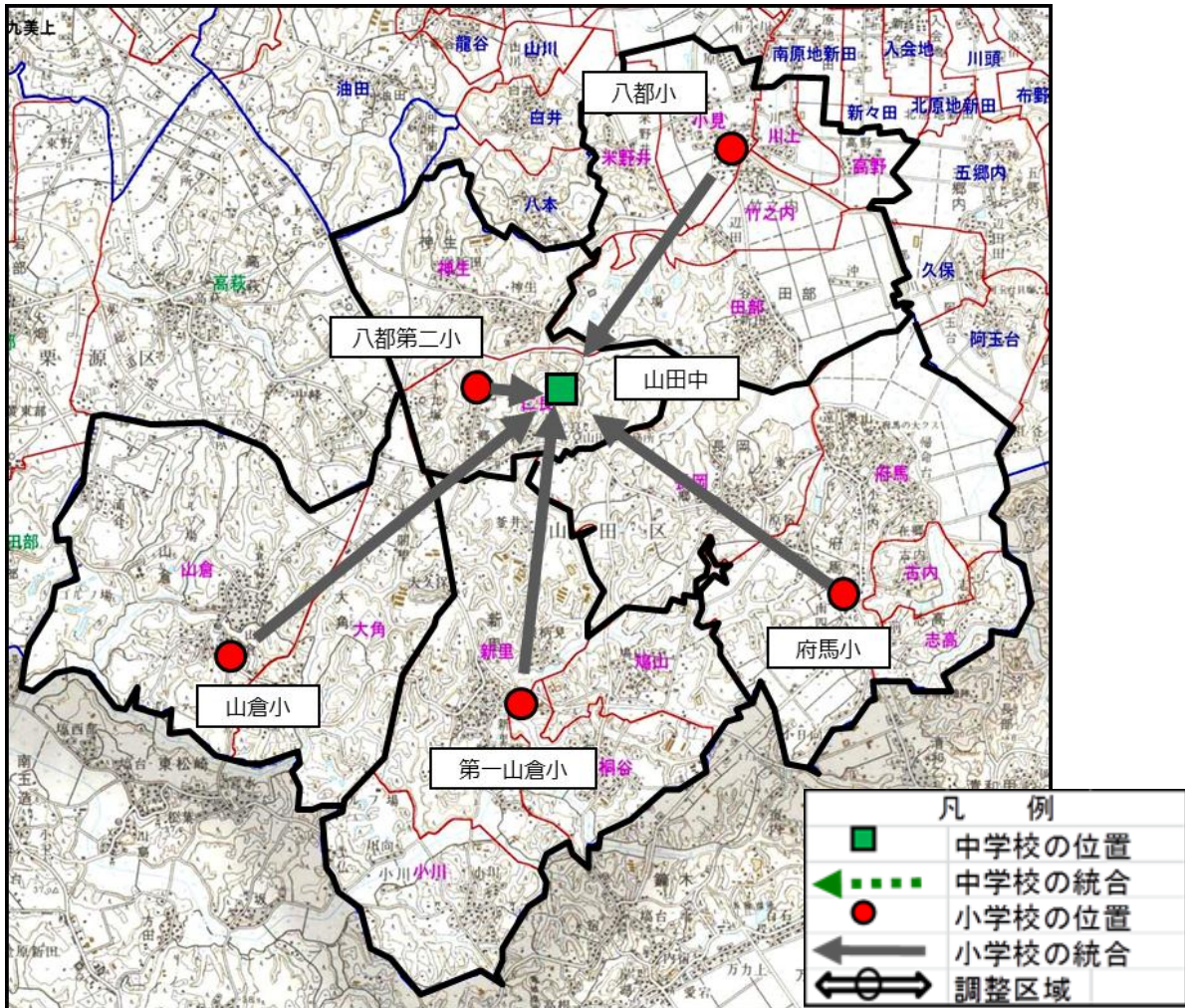
○山田ブロックの小学校の児童数の推計

学校名		区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
八都小	児童数		112	102	101	98	94		
	学級数		6	6	6	6	6		
八都第二小	児童数		56	51	52	54	51		
	学級数		6	4	5	4	4		
府馬小	児童数		112	105	96	96	96		
	学級数		6	6	6	6	6		
第一山倉小	児童数		74	73	80	78	72		
	学級数		6	6	6	6	6		
山倉小	児童数		50	53	53	52	55		
	学級数		6	4	4	5	5		
統合小学校	児童数			384	382	378	368	363	353
	学級数			12	12	12	12	12	12

※ は、複式学級が含まれる年度の学級数

平成26年度は、増置教員等により複式学級を解消

○山田ブロック再編案図



【栗源ブロック】

中学校数 1校 ⇒ 1校

小学校数 1校 ⇒ 1校

≪中学校≫

- 栗源中学校は、許容規模を下回っていますが、現在、コミュニティスクールとして指定を行っているため、これについて検証し、生徒数の推移を注視しながら、再編統合については今後の検討課題とします。

○栗源ブロックの中学校の生徒数の推計

学校名	区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
栗源中	生徒数	96	94	90	96	95	94	79	73	74	78	89	85	86
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

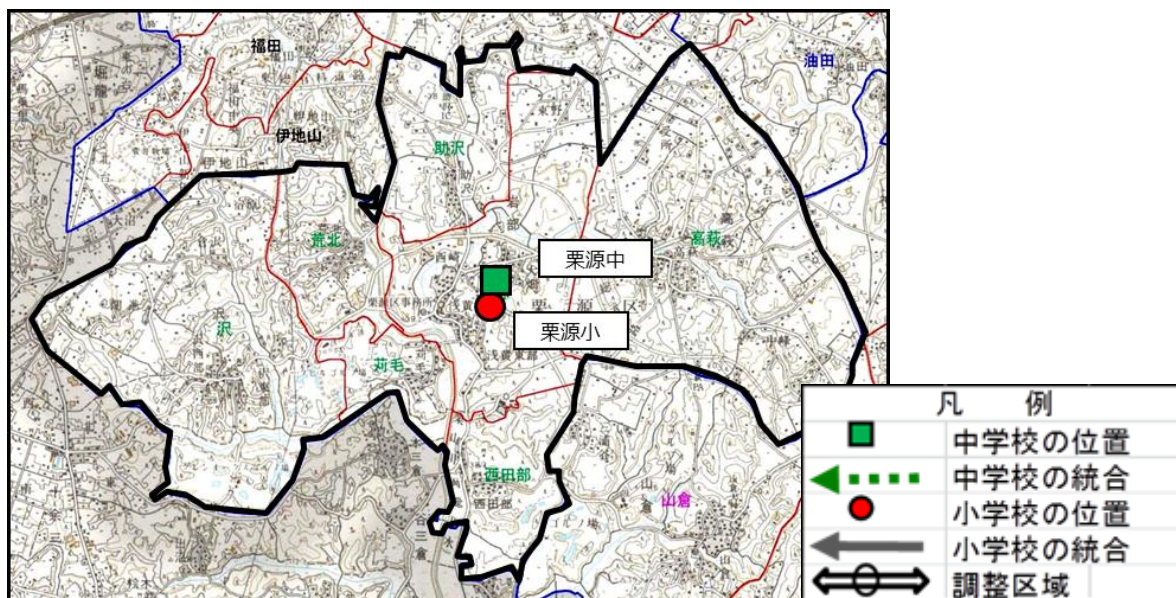
≪小学校≫

- 栗源小学校は、当面許容規模の確保が見込まれることから統合は行いません。

○栗源ブロックの小学校の児童数の推計

学校名	区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
栗源小	児童数	171	165	164	155	159	155	164
	学級数	6	6	6	6	6	6	6

○栗源ブロック再編案図



1 0 跡地活用の検討

学校は地域のシンボリックな存在で、地域コミュニティの場としての役割があり、統合後における新たな地域コミュニティの醸成のため、市民協働で跡地の有効的な活用を検討する必要があります。

跡地活用について、学区内住民を中心に跡地活用検討会議等を設置し、市民協働で地域意見を取りまとめます。

1 1 学校再編の計画期間と推進方針

教育環境の格差を是正し、公平な教育環境を確保するためには全市的、かつ計画的に学校適正配置を進める必要があります。そのため、事業展開を前述の「8 市民協働による学校再編の推進」を踏まえ次のように設定し、順次適正配置に向けた取り組みを進めます。

- ① 実施プランの計画期間を平成37年度までとします。
- ② 小学校の複式学級と中学校の単学級化の解消を優先して取り組めますが、各ブロックの熟度も考慮し推進します。
- ③ 有利な財源である合併特例債を活用し、統合整備事業を進めます。
- ④ 児童生徒数の推移を注視しつつ、必要に応じてブロック案の見直しを行うなど、柔軟な対応で学校再編を進めます。

資 料 編

竟成小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立竟成小学校地域検討会議検討結果報告書

平成23年8月22日

香取市学校等適正配置計画・実施プランにかかる香取市立竟成小学校地域検討会議の検討、協議が終了しましたので、「香取市立小学校再編にかかる地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

会議において、「学校の適正規模」「小中連携教育の推進」「学校の適正配置」の観点から、実施プランCブロック、Dブロック案について意見を求めたところ、実施プランにある「大根・大崎・長山地区を分割して福田小へ加える。」ことについて、委員中より「なぜ、遠くにある福田小なのか、納得できる説明を」との問いに対し、事務局から、「小中連携教育を推進するためには小・中学校が近いほうが良いこと、福田小は、施設面で成田国際空港周辺対策交付金が充てられ、空調設備が完備されているためである。」

また分割統合の理由については、「中学校進学時、中学校区が違うため分かれて進学することを解消するためである。これは、プランを作成するなかで、香取市全体の地域代表、市民代表で組織した香取市学校等適正配置検討委員会で、検討、審議し、小中連携を推進するとの判断基準をもとにして決定したものです。」との説明がありました。

これに対し、保護者代表委員から「小中連携教育を推進するうえで、佐原第三中に近い福田小を残すとのことですが、この先少子化がすすみ佐原第三中が他へ統合された場合、福田小と統合する意味がない。」また空調設備については「世の中の状況が変わって、節電の時代にそんなに優先順位の高い問題ではない。」との意見がありました。

また、地域代表委員から「大根・大崎・長山地区は、中学校が佐原中、佐原第二中、佐原第三中と進学先が変わり、市の教育行政に翻弄されてきた。小中連携教育を推進するならば、将来、栗源中と統合も考えられる佐原第三中がどこまで存続できるかの見通しがつかないと、小学校の統廃合はあり得ない。」

「現実問題として、大根・大崎・長山地区から佐原第三中へ行っている生徒は少なく、佐原中か佐原第五中という現状ではないか。この実情を踏まえて、プランを立てるべきではないか。」

あるいは、「学校の施設・利便性を考えれば小中連携については、現在のままで竟成小と佐原第五中の連携で可能ではないか。」

また、「現在の竟成小の面積・施設・校舎を福田小と比較しても、竟成小の方が用地面積は広く、施設面も新しい。福田小へ再編することで、児童の学習環境が今よりも悪化する。」といった意見がありました。

学校適正規模については、実施プランにある「Cブロックでは福田小・神南小に竟成小(大根・大崎・長山)の一部が加わることにより、許容規模校(6学級・120人以上)になる。」

また、「Dブロックでは東大戸小に竟成小(与倉・観音・鳥羽)の一部が加わることで、クラス替えができる、理想的な適正規模校となる。」とあるが、これに対して

地域代表委員から「統計上、竟成小は許容規模(120人)を平成27年ぐらいまでは、上回っているのに統合が必要か。中学校の再編が行われた後でも良い。」また、「神南小と福田小の2つだけの統合を検討してからでもよい。」

資料：地域検討会議 検討結果報告書

保護者代表委員から「現状が一番だが、どうしても統合しなければならないのであれば、小さいところに詰め込むより、福田小・神南小を竟成小に統合すべきである。」との意見がありました。

以上の意見をふまえ、香取市学校等適正配置計画・実施プランの提案に対する竟成小学校地域検討会議の検討、協議結果として、委員全員の賛意により、「現時点では、再編統合は時期尚早である。」との結論に達しましたことを報告します。

福田小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立福田小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成25年3月12日

1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案Cブロックについては賛成とする。

2. 検討経過

平成24年 8月28日	地域説明会 (福田小学校)	
平成24年 11月 6日	地域検討会議に係る準備会	実施プランについて
平成24年 12月20日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立並びに各地区等の意見集約を行うことを決定
平成25年 2月 6日	理事会	
平成25年 2月15日	第2回地域検討会議	各委員の意見表明
平成25年 3月12日	理事会	地域検討会議報告書のまとめ

3. 検討の概要

実施プランの再編ブロック案Cブロックでは、神南小学校と竟成小学校の一部（大根・大崎・長山）は福田小学校に統合し、許容規模の120人を確保するとしている。また、福田小学校と佐原第三中学校のみ、成田空港周辺対策交付金による学校設備、光熱費の優遇措置が講じられている。竟成小学校地域検討会議では、既に「現時点では、再編統合は時期尚早である。」との検討結果を教育委員会へ報告している。神南小学校は、地域検討会議でこの再編案に反対であるとの方向で協議が進んでいるとの報告があった。このような中、再編ブロック案Cブロックについて検討協議を行った。

福田小学校の児童数は減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くことが予測される。また、神南小学校も同様に減少傾向にあり、ともに複式学級が危惧される。仮に2校の統合で当面の間は、市の許容規模は確保されるが、いずれ少子化の影響で確保できなくなる。このため統合しても再統合することも考えられる。

学校施設等の状況では、統合に伴う学校施設の充実を望む。

各地区の意見やPTAの意見は、福田小学校に統合することとしている実施プランに賛成であり、統合はすべきとしている。

以上の事から、今回の再編ブロック案Cブロックについては賛成とする。

ただし、竟成小学校や神南小学校の検討結果を受け、再編ブロック案の見直しを行うときは、佐原第三中学校の小規模化も深刻な問題であるので、小中学校共に検討することを要望する。

神南小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立神南小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成25年2月26日

1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案Cブロックについては反対とし、神南小学校は、当面の間このまま存続させることとする。

2. 検討経過

- 平成24年 7月20日 地域説明会
- 平成24年10月18日 地域検討会議に係る準備会 実施プランについて
- 平成24年11月29日 第1回地域検討会議（地域検討会議の設立並びに地域アンケート調査実施の決定）
- 平成24年12月12日 理事会（地域アンケートの内容について）
- 平成24年12月17日～
- 平成25年 1月11日 地域アンケート調査実施
- 平成25年 2月 5日 理事会（地域アンケート調査結果について）
- 平成25年 2月 7日 第2回地域検討会議（地域アンケート調査結果の報告並びに各委員の意見表明）
- 平成25年 2月26日 理事会（地域検討会議報告書のまとめ）

3. 検討の概要

実施プランの再編ブロック案Cブロックでは、神南小学校と竟成小学校の一部（大根・大崎・長山）は福田小学校に統合し、許容規模の120人を確保するとしているが、竟成小学校地域検討会議では、既に「現時点では、再編統合は時期尚早である。」との検討結果を教育委員会へ報告している。このような中、再編ブロック案Cブロックについて検討協議を行った。

神南小学校と福田小学校の児童数は共に減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くことが予測され、複式学級の設置が危惧される。

学校施設等の状況では、福田小学校と比較すると神南小学校は、学校敷地が広く、駐車場も概ね確保されており利便性に優れている。また、学校を取り巻く自然環境も素晴らしく、今後もこの環境は残していきたい。福田小学校は、成田空港周辺対策交付金による学校設備、光熱費の優遇措置が講じられているとしているが、学校再編の判断材料にはならないと考える。

小中連携教育では、佐原第三中学校は、神南小学校と福田小学校のほぼ中間に位置しており、福田小学校へ統合する理由がないと史料する。

アンケート結果では、福田小学校への統合に反対が56.7%で、小学生以下のいる世帯においては69.7%とさらに傾向が強まっている。

また、アンケートのなかには、佐原第三中学校へ統合し、小中一貫校を設置するという意見も多くあったが、二校の統合では佐原第三中学校の現状は変わらず、同中学校の小規模化が進行していく。このような状況のなかで、教育委員会は、佐原第三中学校を小中一貫校に整備するには、大規模な増改築が必要となり、今回の再編計画では大規模な増改築は想定していないとしている。

以上の事から今回の再編ブロック案Cブロックについては賛成できず、当面の間は、神南小学校を存続させることとする。

新島小学校 大東分校
(報告者及び宛名等は省略)

香取市立新島小学校大東分校 学校再編に係る検討結果報告書

平成24年3月8日

香取市学校等適正配置計画実施プランに掲げる再編ブロック案（Eブロック）について検討協議を行い、その結果については下記のとおりですので報告します。

記

- 1 検討結果 香取市学校等適正配置計画実施プランどおり統合することについては、安全な通学手段（スクールバス等）を確実に確保することを前提に同意する。
統合の時期については、平成25年4月を目途とする。
- 2 検討経過 平成23年11月15日 地域説明会
平成24年 1月24日 保護者説明会
1月29日 市和田区地域説明会
2月26日 附洲新田区地域説明会
- 3 検討内容 ①大東分校児童数の推計（～平成29年度）について
②指定学校の変更について
③通学手段の確保について
④統合の時期について

4 検討協議の概要

今後の児童数の推計を見ても、大東分校は概ね10人程度で推移していく。指定学校の変更を考慮すると、既に、市和田区からは指定学校の変更をし、新島小学校へ通学している児童がおり、これを踏まえて推計をすると、平成25年度・平成26年度には入学者がないこととなる。これにより学校の規模がますます小規模化し、学校運営が困難になることが予想される。

統合の時期は、「教育の機会均等」や「教育水準の向上」を考えれば、少しでも早い統合が望ましいことから、平成25年4月を目途に進めてもらいたい。

また、通学手段（スクールバス等）については、確実に確保することを統合の条件とする。

湖東小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立湖東小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成25年5月14日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立湖東小学校地域検討会議の検討協議が終了しましたので、「香取市立湖東小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を下記のとおり報告します。

記

1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プラン再編ブロック案の湖東小学校と新島小学校が統合することについては、対等統合とすることで賛成とし、子どもたちのためにも速やかに統合に向けた協議を開始されたい。また、教育委員会は、保護者の統合に伴う不安を解消することに努められたい。将来的には、北佐原小学校を含めた小中一貫校の設置を望む。

2. 検討経過

日付	名称	内容等
平成23年11月24日	地域検討会議に係る準備会	実施プランについて
平成24年 3月 2日	保護者説明会(湖東小学校)	
平成24年 5月30日	第2回地域検討会議に係る準備会	学校再編の現状と課題
平成24年 7月12日	地域説明会(湖東小学校)	
平成24年 8月22日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立について
平成24年10月16日	第2回地域検討会議	学校再編に係る検討事項及び検討方法について
平成24年11月21日	第3回地域検討会議	学校再編について
平成25年 1月19日	本津地区説明会(本津公民館)	
平成25年 1月20日	三島地区説明会(三島公民館)	
平成25年 2月11日	境島地区説明会(境島公民館)	
平成25年 2月16日	大島地区説明会(大島公民館)	
平成25年 2月27日	第4回地域検討会議	学校再編について
平成25年 3月16日	八筋川地区説明会(八筋川公民館)	
平成25年 3月23日	保護者説明会(湖東小学校)	
平成25年3月27日～ 平成25年 4月 9日	PTA アンケート調査の実施 (PTAが実施)	
平成25年 4月 7日	大島地区説明会(大島公民館)	
平成25年 4月17日	第5回地域検討会議	PTA アンケート調査結果の報告並びに各委員の意見表明と検討結果のとりまとめ
平成25年 5月14日	理事会	地域検討会議の検討結果報告書のまとめ

3. 検討の概要

実施プランの再編ブロック案 E ブロックでは、新島小学校、湖東小学校、大東分校、利北分校の 4 校を統合し、市の許容規模の 120 人を確保し、新島中学校と小中連携教育を推進するとしている。E ブロックの現在の状況は、平成 25 年 4 月には大東分校が本校の新島小学校へ統合となった。これらのことを含めて適正規模、適正配置について検討協議を行った。

湖東小学校の児童数は、平成 24 年 4 月現在 60 人で、複式学級があるが、増置教員で解消している状況である。このため、増置教員本来の業務は、他の教員が負担し合うことになり、教員一人一人の負担が増え、この影響は子どもたちにも及ぶことが懸念される。平成 25 年度は、複式学級を複数設置することになり、増置教員の対応でも解消されないため、講師を雇い学級担任を支援し、複式学級を解消している。平成 30 年度の児童数は 27 人に減少すると推計しており、学校の小規模化が益々進行し教育環境の低下が危惧される。

小規模校のメリットである「きめ細かな指導」や「異学年の交流」などよりも、「限られた人数の中での交友関係で、切磋琢磨する機会が少なくなる」や「コミュニケーション能力が育ちにくい」などのデメリットを解消することが必要であり、多くの交友関係を築き、互いに競い合い、そして認め合い、社会性を身に付けることが大事である。

湖東小学校 PTA が児童の保護者へ実施した「学校再編に関するアンケート」の集計結果では、「統合した方が良い」が 54%、「どちらかと言えば統合した方が良い」が 17%であり、また「存続した方が良い」が 5%、「どちらかと言えば存続した方が良い」が 7%であった。この結果から、保護者の 70%以上の方が統合した方が良いと考えている。学校統合については、保護者の意見が重要であり、このアンケート結果は尊重されるべきものである。

明治 9 年に開学した伝統ある湖東小学校が、統合により地域からなくなることで、地域の疲弊に繋がるのではないかと危惧される意見もあるが、小学校の小規模化は切迫した状況であることから、将来ある子どもたちの教育環境を優先して考えざるを得ない。

湖東小学校と新島小学校が統合しても平成 30 年度には、106 人となり市の許容規模の 120 人を下回ることから、北佐原小学校を含めた統合が望まれる。これについて、教育委員会では、北佐原小学校を含めた統合には時間がかかるとしている。その間も湖東小学校の児童数は減少することから、現段階でできる統合を優先せざるを得ない。

以上の事から、子どもたちのより良い教育環境を実現するため、湖東小学校と新島小学校の統合については賛成とし、統合に際し対等統合としていることから校名、校歌、校章などは見直しの協議を行うことを条件とする。また、統合に伴う児童のメンタルケアや通学方法などの不安について教育委員会は、保護者との話し合い等を含め、不安解消に努めていきたい。

なお、北佐原小学校を含めた小中一貫校の早期実現を要望する。

新島小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立新島小学校学校再編に係る地域検討会議検討結果報告書

平成25年10月25日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る学校再編を検討協議するため、香取市立新島小学校地域検討会議を立ち上げ、湖東小学校との統合について検討協議を行いました。その検討結果について、下記のとおり取りまとめましたので、香取市立新島小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱第2条の規定により提出します。

記

1 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランに掲げる新島小学校と湖東小学校の統合は賛成とする。

2 検討経過

平成25年5月24日	地域検討会議準備会	・香取市学校等適正配置計画実施プランについて ・地域検討会議の運営について ・湖東小地域検討会議検討結果報告
平成25年6月25日	第1回地域検討会議	・地域検討会議の設立 ・地域検討会議設置要綱の制定 ・役員の選出 ・今後の進め方について
平成25年6月28日	保護者説明会	
平成25年7月26日	地区説明会 (市和田・附洲新田)	
平成25年7月28日	地区説明会 (磯山)	
平成25年8月10日	地区説明会 (扇島第2・与田浦)	
平成25年8月17日	地区説明会 (扇島第1)	
平成25年9月26日	第2回地域検討会議	・地区説明会の結果報告 ・地域検討会議意見集約
平成25年10月21日	地域検討会議理事会	・地域検討会議検討結果報告書作成

3 検討協議の概要

香取市教育委員会が平成22年7月に策定した「香取市学校等適正配置計画実施プラン」に基づき、新島小学校と湖東小学校が統合することについて、地域検討会議を組織し検討協議を行った。

湖東小学校地域検討会議では、「対等統合とすることで賛成とし、子どもたちのためにも速やかに統合に向けた協議を開始されたい。」と検討結果がまとまっている。

新島小学校地域検討会議では、この結果を受け、対等統合に対し、「学校名」「校歌」「校章」の扱いを含め湖東小学校との統合について、地区説明会や保護者説明会を行い、湖東

小学校の現状などを説明し、地域住民に周知を図ってきた。

湖東小学校の児童数は、今後急激に減少し、二学年を一学級に編制する複式学級が平成27年度から常態化する見込みである。この状況は、教育環境として望ましい姿ではなく、次代を担う子どもたちには等しく教育を受ける機会が与えられなくてはならない。学校統合することで、湖東小学校の複式学級が解消され、また新島小学校でも児童数が増え、多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合い、切磋琢磨する機会が増えるなど、現在の教育環境を更に向上することができる。

地区説明会や保護者説明会においても、参加者は多くなかったもののその中では、「湖東小学校との統合は賛成」とする意見が多く、概ね統合することに理解は得られていると考えられる。新島小学区として、統合後、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう地域全体で協力することが大事である。

平成27年度までに湖東小学校との学校統合を実現するためには、両校の代表者で組織する代表者会議を早急に立ち上げ、学校統合に係る基本的事項の「学校名」「校歌」「校章」などは円滑な話し合いの下に検討協議し、決定することが望まれる。

学校統合は、子どもたちの教育環境をより良くするために行われるべきであり、これまでの地域の歴史や伝統も重要なことではあるが、その歴史や伝統を継承しつつ、新たな学校として歴史や伝統を地域と学校が連携して築き上げることの方が重要である。

教育委員会は子どもたちの交流事業や保護者とよく話し合い、円滑な学校統合ができるよう十分配慮すること。

また、将来的なビジョンとして北佐原小学校との統合も望まれる。

大倉小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立大倉小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成26年4月10日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立大倉小学校地域検討会議の検討、協議が終了しましたので、「香取市立大倉小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

記

1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案の大倉小学校が津宮小学校に統合する事については反対とする。将来を見すえ大倉小学区としては、大規模な統合を望む。また、香取市及び教育委員会は子どもたちの安全安心の確保と、保護者の抱く不安の解消について対処することを要望する。

2. 検討経過

期 日	内 容	備 考
平成25年 5月25日	区長会説明	区長 10名
平成25年 5月29日	PTA説明	保護者40名
平成25年 6月 6日	大倉小学校地域検討会議 準備会	学校再編について
平成25年 7月18日	第1回大倉小学校地域検討会議	地域検討会議設立
平成25年 8月25日	第2回大倉小学校地域検討会議	アンケートについて
平成25年10月 8日	第3回大倉小学校地域検討会議	アンケートについて
平成25年11月21日	第4回大倉小学校地域検討会議	アンケートについて
平成25年12月20日～ 平成26年 1月20日	大倉小学校学校再編に係るアンケート	
平成26年 2月25日	第5回大倉小学校地域検討会議	アンケート結果、意見集約
平成26年 3月24日	第6回大倉小学校地域検討会議	検討結果報告書

3. 検討の概要

香取市学校等適正配置計画実施プランの大倉小学校が津宮小学校に統合することについて、また、水郷団地地区と大倉新田地区の就学先について、地域住民の代表者・保護者の代表者・学校関係者等で大倉小学校地域検討会議を組織し検討協議を行った。

大倉小学校の学校再編についての地区説明会は前年度に行われており、その中では、大倉小学校が津宮小学校に統合する事について、賛成する声は無かった。しかしながら大倉小学校は少子化による児童減少で平成31年には複式学級が2クラスとなる推計である。今の大倉小学校の子どもたちに行き届いた教育は素晴らしいが、教育環境をより良くするためには、何らかの形で小学校が統合し、小規模化を解消する必要がある。

津宮小学校でも児童数は減少し、大倉小学校より先に複式学級が2クラスとなる事が推計されている。仮に教育委員会の計画通りに大倉小学校と津宮小学校が統合したとしても平成31年には児童数が100名を下回る事となる。

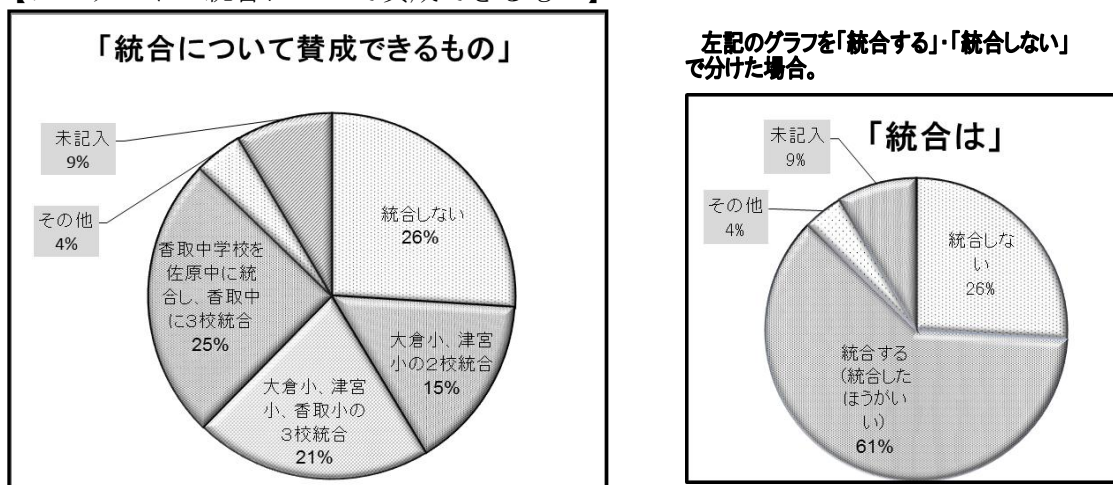
大倉小学校や津宮小学校の児童数が減少する事は進学先である香取中学校も生徒数が減少

していくことになる。生徒数の推計によると、香取中学校は10年後には全学年でクラス替えができなくなる。そのため、教員の人数が減り、現在の教育環境が維持できなくなってくる。この香取中学校の小規模化に対処するためにも、近隣の中学校への統合も考えなくてはならない。

また、同じ香取中学区の香取小学校については、児童数が100名程度で推移するが、大きく増加する事は見込めないと料される。このことから、香取中学校に進学する大倉小学校、津宮小学校、香取小学校の3校が統合することによって200名程度の児童数を確保する事ができる。

大倉小学校の統合について、地域の住民がどのように考えているかを知るため、アンケート調査を実施した。その結果、統合を選択したのは61%であり、その中でも、香取中学校を佐原中学校に統合し香取中学校に大倉小学校、津宮小学校、香取小学校を統合すると選択した割合が多かった。

【アンケート：統合について賛成できるもの】



水郷団地地区に大倉小学校と小見川北小学校の選択ができる調整区域を設ける事や大倉新田地区が新島小学校に通学することについては、アンケートの結果でも「地区の考えを尊重する」が多かったことから、水郷団地地区と大倉新田地区の就学先は再編統合が決定した時に改めて就学先についての意見を取りまとめる事とする。

以上の事から、大倉小学校の再編統合については、大倉小学校と津宮小学校の2校の統合ではなく、香取小学校も含めた3校統合を望む。このことにより、児童数が増え再度の統合の心配が無くなる。また、大倉小学校の進学先である香取中学校の小規模化を解消するためにも、近隣の佐原中学校へ統合し、その中学校跡地を統合小学校とすることも考えられる。

学校統合による保護者が抱く不安について、教育委員会は一つずつ丁寧に対処する事を希望する。

災害時においても、学校が安全安心な事は最優先されることであり、学校に対してや地域の衰退を防ぐためのインフラ整備をすることを望む。

小見川南小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立小見川南小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成25年3月14日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立小見川南小学校地域検討会議の検討、協議が終了しましたので、「香取市立小見川南小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

記

1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案 F ブロックの小見川南小学校が小見川東小学校へ統合する事については、反対とする。

2. 検討経過

平成24年 2月 2日	地域検討会議に係る準備会	(実施プランについて)
平成24年 7月 27日	地域検討会議に係る準備会	(実施プランについて)
平成24年10月11日	地域説明会	
平成24年10月23日	第1回地域検討会議	(地域検討会議の設立について)
平成24年11月27日	理事会	
平成24年12月13日	第2回地域検討会議	(学校再編について)
平成25年 1月17日	理事会	(アンケート調査について)
平成25年 1月22日	?	保護者アンケート実施
平成25年 2月 1日		
平成25年 2月12日	理事会	(保護者アンケート結果について)
平成25年 2月22日	第3回地域検討会議	(保護者アンケート結果・意見表明及び集約)
平成25年 3月14日	理事会	(検討結果報告書について)

3. 検討の概要

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案 F ブロック、小見川南小学校（以下「南小」という。）を小見川東小学校（以下「東小」という。）へ統合する計画について、以下のとおり検討協議を行った。

【児童数】

南小の現在の児童数は48名であるが、平成30年度までの児童数の推計では、若干ではあるが現在より増加し60名前後となる。今後、複式学級の懸念があるものの、平成26年度以降は増置教員の対応により複式学級が解消される見込みである。小規模校には「きめ細かな指導が行いやすい」「一人ひとりの活動の場が多い」などのメリットがあり、また、教員の努力や地域の協力により活発な教育活動が行われている。過少規模校であるから統合するのではなく、地域の学校として残すべきである。

【施設】

校舎や体育館においては、南小と東小の建設年度で大きな差はなく、共に耐震性は有している。東日本大震災以降、防災に対する意識が高まっており、南小は東小よりも高台に位置しており、万一の際も安心安全が確保されている。また、学校は教育の場だけではなく、地域の避難所としての役割も担っている。

【地域コミュニティ】

学校は地域のシンボリックな存在であり、地域住民の交流の場でもある。地域から学校が無くなることにより、若者が定住しなくなり、地域が過疎化し、地域の疲弊につながると思慮される。地域の活性化のためにも学校は残すべきである。

【保護者アンケート】

学校再編に係る保護者アンケート結果では東小への統合に「賛成」が23.5%であったが、「反対」が54.9%と半数以上であった。南小の良いと感じているところでは、「学校が家庭的な雰囲気の上級生と下級生の仲がよい」「学校行事など一人ひとりの児童の活躍する場が多い」「少人数学級により行き届いた指導が行われている」「地域と学校との関わりが深く、地域全体で支えられている」が回答者の多数であった。反対に、良くないと感じているところでは、「PTA活動など保護者一人あたりの負担が大きい」の回答が約半数であった。今後、保護者の負担軽減のため、地域ぐるみで学校運営を支援する事が望まれる。アンケート結果では、南小の教育環境は良く、地域には学校を残すべきであると思っている保護者が多い。

以上のことから、再編ブロック案Fブロックの南小と東小の統合は「反対」とする。

小見川北小学校 利北分校
(報告者及び宛名等は省略)

香取市立小見川北小学校利北分校学校再編に係る検討結果報告書

平成25年5月31日

香取市立小見川北小学校利北分校の学校再編に係る検討結果が下記のとおりまとまりましたので報告します。

記

1 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランに掲げる利北分校の学校再編については、地域住民及び保護者の総意により小見川北小学校に統合することとする。なお、通学の安全を確保するためスクールバスによる通学とする。また、早期に子どもたちの教育環境の不均衡を是正するため、平成26年4月の統合を望む。

2 検討内容

- ①香取市学校等適正配置計画実施プランについて
- ②利北分校の児童数について
- ③通学手段について

3 検討協議の概要

平成25年5月25日に一ノ分目新田区民館において一ノ分目新田区常会を行い、そこで利北分校の学校再編について教育委員会からの説明があり、その後に検討協議を行った。

利北分校に通う児童数も年々減少しており、次代を担う子どもたちの教育環境を考えれば、少しでも早く統合し、教育環境の不均衡を是正させたい。

この地域は、旧小見川町の区域に属しており、小学校5・6年生になれば小見川北小に通学している。このため、新島小学校に統合ではなく、小見川北小学校に統合することが自然な流れである。しかし、将来的なことを考えれば、新島小学校にも通える選択肢は残すべきである。

小見川北小学校へ通学するための手段は、スクールバスとして登校時2便・下校時2便の運行とし、通学の安全には万全を期してもらいたい。

八都小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立八都小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成26年3月28日

教育委員会から提案のあった「山田地域の小学校5校を一つに統合する」ことについて、地域住民の代表者、保護者の代表者、学校教育関係者で組織する香取市立八都小学校地域検討会議を設置し、検討協議を行ってきた。

この度、その検討結果がまとまったので、香取市立八都小学校地域検討会議設置要綱第2条の規定に基づき下記のとおり報告する。

記

1. 検討結果

教育委員会が提案する八都小学校を含む山田地域の小学校5校を一つに統合することについては、小学校は地域と共に歩んできた歴史と伝統があり、また地域のシンボルでもあることから閉校となる事は惜しまれる。しかし、少子化の影響により児童数が減少することで現在の教育環境の維持が困難となる事が予想され、次代を担う子どもたちの事を最優先に考えて統合はせざるを得ない。なお、統合に伴い保護者が心配している事項についての解消に教育委員会は尽力されたい。

2. 検討経過

期 日	会 議 名	内 容 等
平成25年 6月18日	地域検討会議に係る準備会	学校再編・地域検討会議について
平成25年 7月30日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立、今後の進め方
平成25年 8月 6日	八都保育園保護者説明会	参加者：25名
平成25年 9月15日	地区説明会（高野区）	参加者：13名
平成25年 9月16日	地区説明会（小見区）	参加者：10名
平成25年 9月28日	地区説明会（吉野平区・米野井区）	参加者：吉野平19名・米野井10名
平成25年 9月29日	地区説明会（川上区・竹之内区）	参加者：川上14名・竹之内13名
平成25年10月18日	地区説明会（田部区）	参加者：9名
平成25年11月14日	第2回地域検討会議	地区説明会結果・アンケートの実施について
平成25年11月下旬～平成26年1月上旬	学校再編に関するアンケート実施	対象：地域全体 回収率：70.8%
平成26年 2月13日	第3回地域検討会議	アンケート結果、意見集約
平成26年 3月12日	地域検討会議 理事会	検討結果報告書について

3. 検討の概要

教育委員会の説明では市の人口は今後も減少し続け、15歳未満の人口は、平成22年の国勢調査時と比較して平成42年は半分近くに減少する推計である。八都小学校も平成31年度には児童数が100名を下回る推計である。

このため、将来にわたり再統合の必要が生じない「山田地域の小学校5校を一つに統合すること」が教育委員会から提案された。

今回、この提案について、八都小学校地域検討会議において、地区説明会や地域全体へアンケート調査を実施し、検討協議を重ねた。

地区説明会

小学校の統合について、地域へ周知をするために、八都小学区7地区で説明会を実施した。(参加者数合計88名)

八都小学校や山田地域の小学校の児童数推移や、学校統合の必要性についての説明がされ、保護者や地域の方の意見や考えを直接伺った。説明会では統合した場合のスクールバスの運行や、小中一貫校についての質問、また、市の財政状況を考慮し、既存の施設を有効活用すべきではないかという意見があった。

アンケート

地区説明会の参加者が地域全体からすると多くなかったことや、学校統合について、多くの方の意見を取り込むため、地域全体へアンケート調査を実施した。

アンケートは、子どものいない世帯の回答割合が多かったが、山田地域の小学校5校を一つに統合する事については、賛成が50.2%、どちらとも言えないが35.2%、反対が7.9%であった。また、意見では、スクールバス等の通学方法についての課題や、人数が多くなることによるいじめを危惧すること等、5校が統合することについての心配する意見が寄せられた。

検討協議総括

八都小学校は地域と共に歩み創立以来131年の歴史と伝統が築かれてきた。現在の小学校ではきめ細かな指導が行われており、また、児童一人ひとりが活発に活動をしている。しかしながら、少子化の影響で今後児童数は減少し、教育環境も変化していくことが予想される。学校は一定規模の集団で共に学び、支え合い、そして競い合いをすることが必要である。これからの時代を生きる子どもたちにはより多くの集団の中で知識や社会性を身につけてもらいたい。そのためには、教育環境の充実を図るうえで学校統合は必要であり、将来を見据え、山田地域の小学校5校を一つにすることが有効な手段と思慮する。地域から学校がなくなる惜別の思いはあるが、次代を担う子どもたちのことを最優先に考え学校統合は賛成とする。

ただし、学校統合により保護者が不安に思うことを教育委員会は誠意をもって対応してもらいたい。

八都第二小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立八都第二小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成24年11月20日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立八都第二小学校地域検討会議の検討、協議が終了しましたので、「香取市立八都第二小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

記

1. 検討結果

八都第二小学校をできる限り存続させることを基本とすることから、香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案（Gブロック）の八都小学校と八都第二小学校の再編統合については反対である。但し著しく児童数が減少して統合を行うのであれば、山田地域を一つの小学校区とし、小中一貫校の設置を望む。

2. 検討経過

平成23年12月9日	地域検討会議に係る準備会	実施プランについて
平成24年2月24日	地域検討会議に係る準備会	意見交換会
平成24年4月24日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立について
平成24年6月5日	第2回地域検討会議	栗源小学校統合の状況について
平成24年6月18日～7月13日	保護者アンケート実施(就学前を含む)	
平成24年7月7日	保護者説明会	
平成24年7月31日	第3回地域検討会議	保護者アンケート結果について
平成24年10月12日	第4回地域検討会議	各委員の意見表明
平成24年11月20日	第5回地域検討会議	地域検討会議報告書のまとめ

3. 検討の概要

実施プラン再編ブロック案の八都小学校と八都第二小学校の学校再編について、両校が統合した場合の児童数の推計は、平成30年度については150人となり、市の掲げる許容規模（一校当たり120人）を確保することが出来るが、今後、ますます少子化が見込まれることから児童数の減少は避けられないものとする。このため、近い将来再び統合しなくてはならない時期が来ると思慮する。

保護者アンケートの結果、統合に対し70%の反対意見がある。主な理由として、小規模校のメリットである「少人数学級により行き届いた指導が行われている」「上級生と下級生の仲がよい」等が統合により、失われることに不安を感じている。

3. 1 1 東日本大震災以降、災害に対する意識が高まるなかで、八都第二小学校は高台に位置しており、立地条件も良く浸水被害に強い。また学校施設についても校舎・体育館共に耐震性を有している。

現在、仁良・神生住民自治協議会が立ち上がり、まちづくり計画を策定し、住みよいまちづくりに努めている。小学校は、単なる子どもたちの学び舎ではなく、地域コミュニティの核であり、シンボリックな存在でもある。この地域から学校が無くなることで、地域の過疎化が進展することが危惧される。

以上のことから、香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案（Gブロック）の八都小学校と八都第二小学校の再編統合については反対とする。今後、少子化がますます進行していくことが見込まれるなかで、統合について、広域的な視点に立ち、Gブロック全体（山田地域）を一つにまとめる必要がある。

府馬小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立府馬小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成26年4月30日

教育委員会から提案のあった「山田地域の小学校5校を一つに統合する」ことについて、地域住民の代表者、保護者の代表者、学校教育関係者で組織する香取市立府馬小学校地域検討会議を設置し、地域説明会並びに学校再編に関するアンケート調査を学区内の全世帯に実施し、それらの結果を基に検討協議を行ってきた。

この度、その検討結果がまとまったので、香取市立府馬小学校地域検討会議設置要綱第2条の規定に基づき下記のとおり報告する。

記

1. 検討結果

教育委員会が提案する、府馬小学校を含む山田地域の小学校5校を一つに統合することについては、明治からの伝統ある小学校の閉校は惜しまれるが、少子化が進む中、次代を担う子ども達の事を最優先に考え、賛成とする。

なお、統合に伴い、保護者が心配している事項の解消に、教育委員会は尽力されたい。

2. 検討経過

期 日	会 議 名	内 容 等
平成25年 8月 7日	地域説明会	参加者：10名
平成25年 9月24日	地域検討会議に係る準備会	学校再編・地域検討会議について
平成25年10月23日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立、今後の進め方
平成25年12月15日	地域説明会	参加者：15名
平成25年12月18日	保護者説明会（府馬保育園）	参加者：90名
平成25年12月18日	第2回地域検討会議	地区説明会結果・アンケートの実施について
平成26年 1月29日 ～平成26年2月24日	学校再編に関するアンケート実施	対象：地域全体 回収率：79.6%
平成26年 3月14日	第3回地域検討会議	アンケート結果、意見集約
平成26年 4月22日	第4回地域検討会議	検討結果報告書について

3. 検討の概要

教育委員会の説明では、市の人口は今後も減少し、特に15歳未満の人口は平成22年の国勢調査時と比較して、平成42年は半分近くに減少する推計である。府馬小学校も平成28年度には、児童数が100名を下回る推計である。

このため、将来にわたり再統合の必要が生じない「山田地域の小学校5校を一つに統合すること」が、教育委員会から提案された。

今回、この提案について、府馬小学校地域検討会議において、説明会や地域全体へアンケート調査を実施し、検討協議を重ねた。

説明会

小学校の統合について、地域や保護者へ周知するために、説明会を実施した。

府馬小学校や山田地域の小学校の児童数推移と、学校統合の必要性等についての説明を教育委員会が行い、保護者や地域の方の意見や考えを直接伺った。

説明会では「学校が小規模化するとメリットより、デメリットが大きくなると思うので心配である。」、「保護者の意見が大事である。」、「明治からの伝統ある府馬小学校を地域に残すべきだ。」などの趣旨の意見があった。また、小中一貫校についての質問などがあった。

アンケート

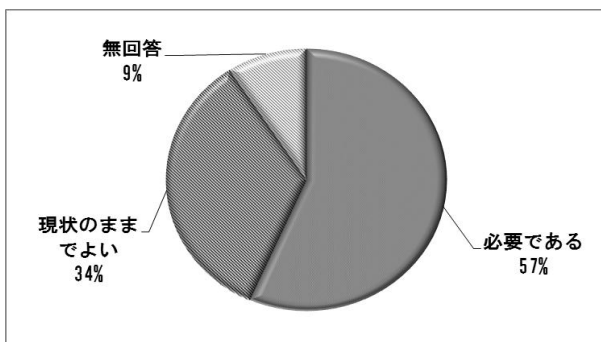
アンケート調査結果は、子どものいない世帯が58%と多かったが、統合は必要であるとの回答が57%であった。中学生以下のいる世帯では、66%が統合は必要であると回答しており、統合を支持する率が高い。

統合が必要と回答した世帯の内、山田地域の小学校5校を一つに統合する事については、賛成が65%、どちらとも言えないが27%、反対が6%であった。

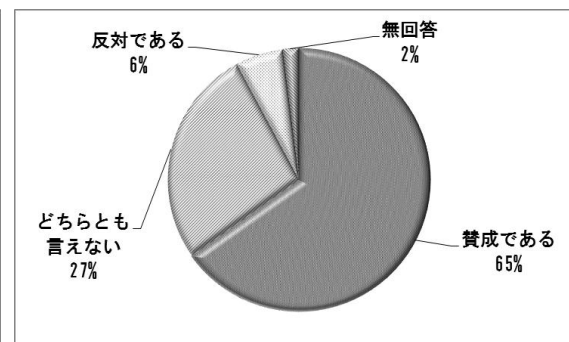
また、意見では、統合校の設置に伴い、既存の施設を有効利用することや、スクールバス等の通学方法についての課題など、5校の統合について心配する意見が寄せられた。

※参考：アンケート結果

問：あなたは、学校統合は必要と思いますか。



問：山田地域の小学校5校を一つに再編する案についてどう思いますか。(統合が必要と答えた方のみ回答)



検討協議総括

府馬小学校は創立以来、地域と共に歩み歴史と伝統が築かれてきた。しかしながら、少子化の影響で、児童数は減少することが見込まれる。多くの集団で共に学び、支え合い、切磋琢磨できる環境が、学校には必要である。

児童数が減少し続ける現状では、次代を担う子ども達の教育環境を最優先で考え、学校統合することは、やむを得ないものと思し、学校統合に賛成とする。また、将来を見据え、再統合の危惧がない山田地域の小学校5校を一つにすることが、最も有効な統合方法であると考えている。

ただし、学校統合により、保護者が心配に思うことに対し、教育委員会は誠意をもって対応することを望む。

第一山倉小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立第一山倉小学校学校再編に係る地域検討会議検討結果報告書

平成26年2月19日

教育委員会から提案のあった「山田地域の小学校5校を一つに再編する」ことについて、地域住民の代表者、保護者の代表者、学校教育関係者で組織する香取市立第一山倉小学校学校再編に係る地域検討会議を設置し、地区説明会並びに学校再編に関するアンケート調査を学区内の全世帯に行い、それらの結果を基に検討協議を行ってきた。

この度、その検討結果がまとまったので、香取市立第一山倉小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱第2条の規定に基づき下記のとおり報告する。

記

1 検討結果

教育委員会が提案する山田地域の小学校5校を一つに再編することについては、「賛成」とする。

2 検討協議経過

期 日	内 容	主な協議事項等
平成25年6月20日	地域検討会議に係る準備会	・香取市学校等適正配置計画実施プランについて ・地域検討会議の運営について
7月24日	第1回地域検討会議	・地域検討会議の設立について ・地域検討会議設置要綱の制定について ・役員を選出について ・学校再編に対する意見集約について
8月28日	山倉保育園保護者説明会	参加者22人
9月10日	地区説明会（鳩山区）	参加者 9人
9月11日	地区説明会（新里区）	参加者 4人
9月14日	地区説明会（小川区）	参加者13人
9月22日	地区説明会（桐谷区）	参加者10人
平成25年10月17日	第2回地域検討会議	・地区説明会及び保護者説明会の結果について ・アンケートについて
10月31日 ～ 12月9日	学校再編に関するアンケート調査	(対象) 学区内全世帯 回収率：76.4%
平成26年1月16日	第3回地域検討会議	・アンケート調査結果について ・地域検討会議意見集約について
2月19日	第4回地域検討会議	・地域検討会議検討結果報告書について

3 検討協議の概要

第一山倉小学校地域検討会議では、地域住民に第一山倉小学校が置かれている状況を理解してもらい、そのうえで統合の必要性を検討するため、地区説明会や就学前保護者説明会を開催した。また、地域の意見を広く把握するため学校再編に関するアンケート調査を

学区内各世帯に行い、これらの結果を参考に地域検討会議の意見をまとめた。

第一山倉小学校の児童数は年々減少している。平成31年度の児童数は66人となり、学級数は5学級で複式学級となる見込みである。教員数は学級数に応じて配置されており、複式学級では、一人の教員が二つの学年の授業を同時に行うことになり、児童・教員に対し負担が大きいとされている。また、一学年の児童数が減少することで、体育の授業での球技や音楽の授業での合奏に制約が生じ、教育環境の公平性が保てなくなる。更に、男女比の偏りや限られた人数のなかで6年間を過ごすことで、人間関係の固定化や成績の序列化が懸念される。少人数では、「目の行き届いたきめ細かな指導が行いやすい」「一人ひとりの活動の場が増える」などの良い点もあるが、教育は、どこでもだれもが同じ条件のもとに受けられるものでなければならず、教育環境の格差是正は急務である。

統合校の位置については、既存の学校施設の有効活用も含め、将来的に教育委員会が考えている小中一貫教育を行うために中学校に隣接することは有効ではあるが、全国的に小中一貫教育の取り組み事例が少ないなかでは慎重に進めるべきである。

統合に伴い通学距離が延伸されることになるため、スクールバスの運行は必要である。運行に際しては、保護者と十分協議し子どもの安全・安心の確保に努められたい。

学校統合は、子どもたちの教育環境を向上させるために行われるものである。次代を担う子どもたちには、多くの友と共に学び、切磋琢磨しながら、基礎・基本の学力の定着、人を思いやる心、そしてたくましく生きるための健康や体力をバランスよく身に付けてもらいたい。説明会やアンケート結果でも統合は賛成の意見が多く、早期の実現が望まれている。

以上から、山田地域の小学校の5校を一つに再編することは「賛成」とする。

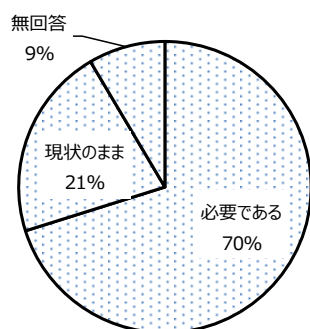
ただし、保護者は「いじめ」「スクールバスの運行」等に不安を抱いている。これらの不安の解消に教育委員会は尽力されたい。

また、小学校は、多くの地域の方から愛され、地域と共に歩んできた歴史と伝統がある。統合に伴い小学校が無くなることへの寂しさはあるが、統合校が先進的な取り組み等で他の模範となるような特色ある学校づくりをお願いする。

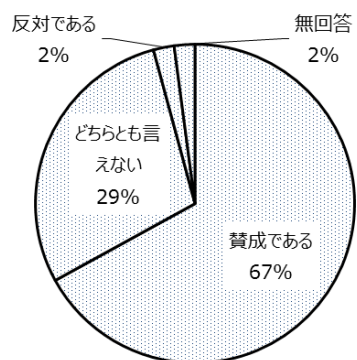
【アンケート結果】

- ・アンケート対象者：学区内の全世帯（478世帯）
- ・アンケート実施期間：平成25年10月31日～12月9日
- ・アンケート回収率：76.4%

問 あなたは、学校統合は必要と思いますか。



問 山田地域の小学校5校を一つに再編する案についてどう思いますか。



山倉小学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立山倉小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成25年3月18日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立山倉小学校地域検討会議の検討協議が終了しましたので、「香取市立山倉小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

記

1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案Gブロックについては反対とし、将来を見越して山田地区内の5小学校を一つに統合し、小中一貫校の設置を望む。

2. 検討経過

平成24年	7月	3日	地域説明会(山倉小学校)	
平成24年	10月	25日	地域検討会議に係る準備会	実施プランについて
平成24年	12月	6日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立並びに地域アンケート調査実施の決定
平成24年	12月	8日	保育園保護者説明会(山倉第二保育園)	
平成24年	12月	14日	理事会	地域アンケートの内容について
平成24年	12月	21日	保護者説明会(仲組集落センター)	
平成24年	12月	20日～		
平成25年	1月	6日	地域アンケート調査実施	
平成25年	2月	14日	理事会	地域アンケート調査結果について
平成25年	2月	19日	第2回地域検討会議	地域アンケート調査結果の報告並びに各委員の意見表明
平成25年	3月	11日	理事会	地域検討会議報告書(案)のまとめ
平成25年	3月	18日	第3回地域検討会議	地域検討会議報告書のまとめ

3. 検討の概要

実施プランの再編ブロック案Gブロックでは、山倉小学校を第一山倉小学校に統合し、許容規模の120人を確保するとしている。また、山倉地区の一部の三浦谷地域は、栗源小学校を通学校とし、統合先の第一山倉小学校を通学許可校とする調整区域制度を導入する計画としている。これらのことを含めて適正規模、適正配置について検討協議を行った。

学校施設等の状況では、山倉小学校と第一山倉小学校を比較すると学校の敷地面積、特別教室などを含めた校舎の整備状況並びに、体育館の面積などは、ほとんど変わらない。プールについては、第一山倉小学校は使用できない状況で、当校のプールを使用している。このことから、第一山倉小学校の優位性は認められない。

児童数については、香取市の少子化が進む中、山倉小学校と第一山倉小学校は共に減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くことが予測される。仮に二校が統合しても、いずれ市の許容規模を下回り、再び統合が必要と想定される。

三浦谷地域の調整区域については、単に栗源小学校までの通学距離を理由とするもので、

地域の歴史や伝統に配慮しておらず、ひいては地域の分断、また、地域の弱体化にもつながる懸念がある。

地域アンケート結果では、第一山倉小学校との統合に「賛成」が 22.7%、「山倉小学校に統合」が 31.9%、「もっと大きな統合」が 36.8%であった。小学生以下がいる世帯では、「賛成」が 21.4%、「山倉小学校に統合」が 27.1%、「もっと大きな統合」が 47.1%であり、将来を見越した大きな統合を望む意見が約半数を占める結果であった。

また、山田地区の小学校 5 校を統合して一つの小学校を設置することについては、「賛成」が 54.6%、「反対」が 35.2%であり、小学生以下がいる世帯では、「賛成」が 62.9%、「反対」が 27.1%となり、賛成が 6 割強を占めている。

なお、教育委員会では、既存の学校施設の有効活用を基本としているが、小学校 5 校が一つになるのであれば、新設校も検討するとしている。

以上の事から、再編ブロック案 G ブロックについては反対とし、山田地区内の 5 小学校を一つに統合し、小中一貫校の設置を望む。これにより、統合に伴う地区間の不平等感を軽減し、将来にわたり再統合の心配がなくなり、クラス替えができるなど教育環境の増進が図れる。また、小中一貫校を整備することで、学力の向上などが期待できる。今後、小中一貫校の実現に向けて、G ブロックで検討する組織を早急に立ち上げることを要望する。

佐原第三中学校

(報告者及び宛名等は省略)

香取市立佐原第三中学校地域検討会議 検討結果報告書

平成26年10月28日

教育委員会から提案のあった「佐原第三中学校を佐原中学校へ統合する。」ということについて、地域住民の代表者、保護者の代表者、学校教育関係者で組織する香取市立佐原第三中学校地域検討会議を設置し、各立場で地域の意向の把握に努力し、検討協議を行ってきた。

この度、その検討結果がまとまったので、香取市立佐原第三中学校地域検討会議設置要綱第2条の規定に基づき下記のとおり報告する。

記

1. 検討結果

教育委員会が提案する、佐原第三中学校が佐原中学校へ統合することについては、地域のシンボルでもある中学校が無くなることは寂しく、また、残念である。しかし、少子化が進む中、次代を担う子ども達の事を一番に考え、佐原中学校へ統合することに、賛成とする。統合時期については平成28年4月1日とし、佐原第三中学校の全学年が一緒に統合することで合意に至った。

なお、統合に伴い通学方法や生徒のメンタルケア等、保護者が心配している事項の解消に、教育委員会は尽力されたい。

2. 検討経過

期 日	会 議 名	内 容 等
平成26年 5月27日	神南小学校地域検討会議	佐原第三中学校地域検討会議への代表者選出
平成26年 5月29日	福田小学校地域検討会議	佐原第三中学校地域検討会議への代表者選出
平成26年 6月17日	竟成小学校地域検討会議	佐原第三中学校地域検討会議への代表者選出
平成26年 7月24日	第1回地域検討会議	佐原第三中学校地域検討会議の設置と佐原中学校への統合について
平成26年 9月30日	第2回地域検討会議	佐原中学校への統合について
平成26年10月28日	地域検討会議理事会	検討結果報告書について

3. 検討の概要

教育委員会の説明では竟成小学区、福田小学区、神南小学区の3小学区での地域検討会議や説明会等で、佐原第三中学校の小規模化の課題が指摘されてきた。

平成25年度には、佐原第三中学校と竟成小学校、福田小学校、神南小学校のPTA役員で構成する「佐原第三中学校再編PTA懇談会」が設置され佐原第三中学校の学校再編について協議を行った。会議では、保護者説明会や保護者アンケートが実施され、保護者の意見が取りまとめられた。その結果は、保護者の要望として「佐原中学校へ速やかな統合を望む。」ということであった。

佐原第三中学校が佐原中学校へ統合することについて、保護者の意見が確認されたことから、今回、佐原第三中学区の地域の意見集約を行うため「佐原第三中学校地域

検討会議」を設置した。

佐原第三中学校地域検討会議を設置するにあたり、3小学区で各々地域検討会議を開催し、代表者6名を選出した。また、他に佐原第三中学校PTA役員3名と関係する学校長4名を加えて25名で佐原第三中学校地域検討会議を組織し、検討協議を重ねた。

統合について、地域説明会やアンケートを行い地域の意見を聞くべきではとの意見もあったが、今回の佐原第三中学校域検討会議の委員は、各小学区の地域から選出された代表者で構成され、委員は地区集会や学校行事などを活用して、地域の意向把握に努力してきたことなどから、この地域検討会議で検討結果をまとめることとした。

教育委員会によると、市の人口は今後も減少し、特に15歳未満の人口は平成22年の国勢調査時と比較して、平成42年には半分近くに減少する推計である。また、佐原第三中学校も今年度82人の生徒数が、平成38年度には65人に減少する推計であり、今後も学校の小規模化は更に進み、クラス替えのできない1学年1学級による学級編成が続くなど、教育環境としては好ましくない状況になっている。

統合について

佐原第三中学校は、地域や教員の努力もあり学校運営には、素晴らしいものがある。しかし、学校は既に小規模化しており部活動の種類も少なく、教育環境の改善が急務である。生徒数が減少し続ける現状では、次代を担う子どもの事を一番に考え、統合することは、やむを得ないものと思し、佐原中学校へ統合することに賛成とする。

なお、栗源中学校への進学希望もあることから、これらについては、配慮されたい。

統合の時期について

統合までの準備期間について教育委員会は、スクールバスの準備や佐原中学校の受入体制を整えるためには、1年間は必要としている。また、統合までの1年間に佐原第三中学校も統合に向けて、佐原中学校との交流事業等を行うことで、統合時の生徒の心の負担をなるべく減らし、より円滑な統合ができるとし、統合の時期については、平成28年4月1日に統合ができるとの提案が、教育委員会からあった。

統合に際しては、現在の1年生が卒業してから統合して欲しいとの意見があり、これについて教育委員会は、保護者アンケートでも「統合はなるべく早く」の支持が、60%以上あり、すでに小規模化している状況からも、スピード感をもって対処する必要があるとしている。

統合の時期を延ばすことは、課題の先送りの面もあり、また、佐原第三中学区から他校へ指定校変更を行う生徒の増加による、更なる小規模化の課題もある。小規模化の現状を踏まえると、なるべく早い統合が望まれることから、教育委員会から提案のあった平成28年4月1日の統合に合意する。

なお、学校統合に伴いスクールバスの運行や生徒のメンタルケア等、保護者が心配に思うことに対し、教育委員会は誠意をもって対応されたい。

佐原第三中学校

(報告者及び宛名等は省略)

佐原第三中学校統合に係る要望書

平成26年 4月22日

これまで、竟成小学区、福田小学区、神南小学区において、香取市学校等適正配置計画実施プランに基づく学校再編について、学区ごとに地域検討会議を設置し、小学校の再編の検討を行った。その中で、小規模化が進行する佐原第三中学校に対する不安の声が共通してあった。

このため、佐原第三中学校の小規模化の課題について、佐原第三中学区の小中学校のPTA役員で構成する「佐原第三中学校再編PTA懇談会」を設置し、保護者アンケートや保護者説明会を実施し、意見集約を行ってきた。その結果、下記のとおり要望する。

記

1. 要望

佐原第三中学校を佐原中学校へ統合することを要望する。また、速やかな統合実施を望む。なお、栗源中学校への通学希望者には、配慮されたい。

統合にあたっては、遠距離通学者へのスクールバスの運行や、統合後の生徒のメンタルケアの実施を望む。また、統合時の受験生への影響など、その他統合に向け心配される課題の解決に教育委員会は、努めることを要望する。

2. 懇談会の経過

期 日	会 議 名	内 容 等
平成25年 7月17日	佐原第三中学校保護者説明会	PTA 集会で説明
平成25年10月 4日	第1回再編PTA懇談会	少子化の状況、学校再編のこれまでの結果、佐原第三中学校の再編統合について
平成25年11月12日	第2回再編PTA懇談会	アンケートの実施について
平成25年11月30日	神南小学校保護者説明会	PTA 集会で説明
平成25年12月13日	福田小学校保護者説明会	PTA 集会で説明
平成25年12月18日	竟成小学校保護者説明会	PTA 集会で説明
平成26年 1月20日 ～2月4日	保護者アンケート実施	統合について、佐原第三中学区の小中学校の保護者を対象に実施
平成26年 3月 4日	第3回再編PTA懇談会	アンケート結果、意見集約について

3. 懇談会の概要

教育委員会の説明では、香取市の少子化は今後も進み15歳未満は、平成42年には、平成22年に比較して約半分の5,100人に減少すると推計されている。佐原第三中学校の生徒数も減少を続け、現在の80人から平成37年度には67人まで減少する見込みで、1学年1学級が今後も常態化する。また、小規模化のため、単学級でクラス替えができないことや、教科ごとの教員の十分な配置ができない、部活動の種類が少なく選択肢が少ない等、小規模化の改善は喫緊の課題である。

小規模校でも生徒一人一人に教員の目が届きやすく、学習面の定着度が高いなど、メリットもあるが、規模が小さくなりすぎると、デメリットのほうが深刻である。

保護者へ実施したアンケート調査結果では、統合に賛成が73%を占め、0歳から小学校入学前の子どもがいる保護者では賛成が78%と、小さな子どもがいる保護者ほど、賛成の割合が高くなっている。

佐原第三中学校の統合先としては、統合に賛成とした保護者の中で、佐原中学校と回答した保護者が最も多く71%を占めている。栗源中学校との回答も21%あり、今後、これらへの配慮も必要である。

統合時期については、「なるべく早く」が最も多く65%を占め「3～4年先」が20%と早く統合を望む保護者が多い。

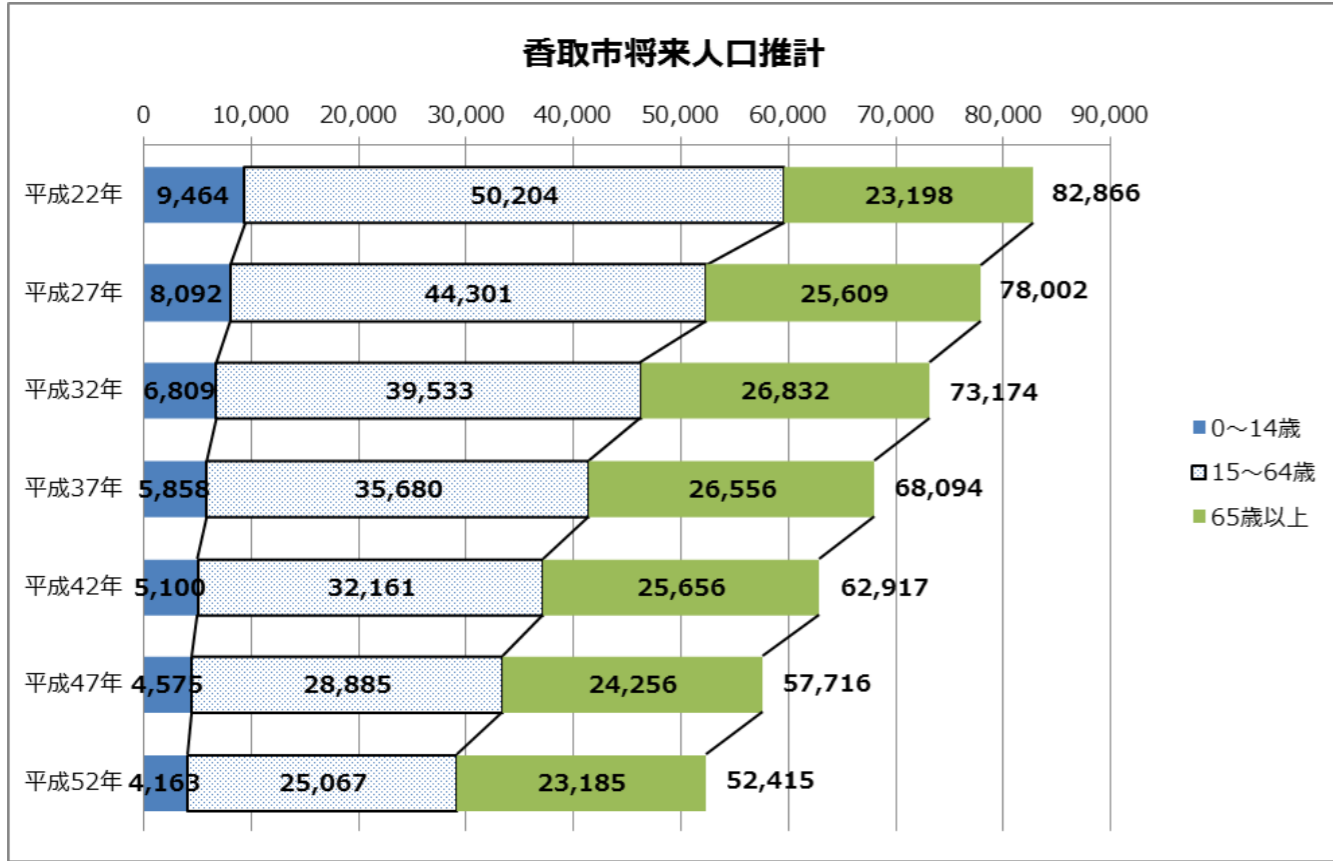
また意見としては、統合後のスクールバスの運行に係る心配事や、保護者の負担軽減の要望、早い時期の統合を望む等の声が寄せられた。

学校は、子どもの学び舎であるとともに、地域に根差したコミュニティの拠点でもあるが、子どもたちの教育環境を最優先に考えることが重要である。

中学校の三年間は、子どもから大人への過渡期に当たり、多くの人々と接し、仲間と切磋琢磨しながら、多くの体験を通し、たくましく生きる力を育てたい。このため、子どもたちにより良い教育環境を与えたい。就いては、佐原第三中学校の小規模化を解消し、再統合の心配がない、佐原中学校への統合を要望する。統合の時期についても、できるだけ速やかに統合実施を要望する。

また、統合に伴い遠距離通学者へのスクールバスの運行、生徒のメンタルケア、その他保護者が心配していることなどについての対応を要望する。

1. 香取市の将来人口の推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所
平成25年3月推計

2. 実施プラン策定時(平成21年度)の生徒数の推移と現在(平成26年度)の推移

(1) 中学校 平成21年度推計

(単位：人)

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
佐原中学校	612	589	552	521	537	518	534	542	561	535	488	443	409	430
香取中学校	204	190	191	173	171	142	141	139	141	129	126	130	121	106
佐原第三中学校	120	116	110	104	96	94	99	112	121	115	102	92	87	80
佐原第五中学校	282	269	257	243	219	234	211	200	212	223	223	192	177	167
新島中学校	98	98	83	90	85	93	80	76	71	76	78	70	63	62
小見川中学校	672	659	675	666	656	624	594	601	591	579	538	512	483	498
山田中学校	283	297	285	286	262	270	269	272	240	215	205	198	205	194
栗源中学校	140	138	134	134	122	118	104	92	89	95	104	104	87	66
合計	2,411	2,356	2,287	2,217	2,148	2,093	2,032	2,034	2,026	1,967	1,864	1,741	1,632	1,603

(2) 中学校 平成26年度推計

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
佐原中学校	612	589	547	516	531	522	540	542	663	632	570	530	491	507	523	506	455	416	429
香取中学校	204	190	187	170	169	141	140	135	141	129	123	124	115	109	106	114	100	91	91
佐原第三中学校	120	116	108	94	85	80	82	94											
佐原第五中学校	282	269	256	242	214	225	203	198	214	220	218	192	190	179	173	173	171	159	137
新島中学校	98	98	76	77	69	85	72	69	70	78	87	69	66	58	62	61	59	64	59
小見川中学校	672	659	664	643	629	599	585	591	588	578	544	517	493	512	491	499	467	457	401
山田中学校	283	297	285	282	256	263	267	270	243	213	206	194	201	187	196	184	185	168	169
栗源中学校	140	138	133	134	115	108	96	94	90	96	95	94	79	73	74	78	89	85	86
合計	2,411	2,356	2,256	2,158	2,068	2,023	1,985	1,993	2,009	1,946	1,843	1,720	1,635	1,625	1,625	1,615	1,526	1,440	1,372

※平成26年度までは、各年度の4月1日の実績
※平成27年度以降は、推計

3. 実施プラン策定時(平成21年度)の児童数の推移と現在(平成26年度)の推移

(1)小学校 平成21年度推計

(単位:人)

年 度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
佐原小学校	949	961	954	944	907	892	842	828
北佐原小学校	127	135	140	140	137	132	120	109
東大戸小学校	199	185	195	187	184	181	175	180
竟成小学校	132	118	132	136	134	137	135	128
福田小学校	78	84	83	81	76	72	70	58
香取小学校	136	139	114	109	104	98	90	79
神南小学校	84	80	83	82	83	85	77	71
瑞穂小学校	167	160	168	162	160	142	145	135
湖東小学校	51	48	54	55	58	51	46	46
新島小学校	93	88	84	75	69	58	61	58
大東分校	8	8	11	11	13	12	14	17
津宮小学校	100	93	90	79	87	89	79	78
大倉小学校	84	78	79	82	74	84	81	75
小見川中央小学校	557	554	547	529	516	515	479	470
小見川東小学校	150	147	130	120	118	117	106	102
小見川西小学校	261	250	244	227	217	192	186	178
小見川南小学校	49	50	45	57	56	56	63	67
小見川北小学校	236	247	239	230	226	221	232	230
利北分校	7	9	10	10	12	10	6	7
八都小学校	135	134	126	128	122	121	117	110
八都第二小学校	70	72	67	61	66	55	52	48
府馬小学校	185	183	173	153	144	125	117	105
第一山倉小学校	98	89	83	84	86	75	78	75
山倉小学校	64	56	61	58	59	62	56	61
(山田地区統合小学校)								
栗源小学校	138	214	207	199	196	193	182	170
沢小学校	46							
高萩小学校	61							
合 計	4,265	4,182	4,119	3,999	3,904	3,775	3,609	3,485



(2)小学校 平成26年度推計

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
949	961	959	939	899	888	841	823	798	761	737	724	730
127	135	143	138	135	126	116	109	100	87	75	76	70
199	185	190	177	175	170	165	167	150	160	146	144	151
132	118	120	125	118	125	117	107	106	99	95	84	73
78	84	82	82	74	68	68	59	61	60	62	64	57
136	139	110	107	97	94	82	79	91	98	89	97	106
84	80	86	84	92	97	92	85	84	78	72	64	62
167	160	167	157	150	141	149	142	133	132	136	130	113
51	48	59	59	60	54	47						
93	88	82	77	72	72	81	129	120	114	110	116	109
8	8	10	8	10								
100	93	87	77	81	81	71	71	65	66	60	54	57
84	78	80	81	73	83	74	67	65	57	53	42	42
557	554	554	546	538	536	506	506	476	459	445	429	420
150	147	133	126	121	118	107	105	100	103	102	106	98
261	250	240	223	213	189	180	170	167	164	170	162	148
49	50	45	51	48	49	54	60	59	61	62	53	45
236	247	232	219	211	197	217	211	201	202	197	195	189
7	9	11	14	15	13							
135	134	128	128	120	119	112	102	101	98	94		
70	72	69	62	69	59	56	51	52	54	51		
185	183	172	152	139	120	112	105	96	96	96		
98	89	91	89	83	71	74	73	80	78	72		
64	56	60	56	59	59	50	53	53	52	55		
											363	353
138	214	210	205	190	184	171	165	164	155	159	155	164
46												
61												
4265	4182	4,120	3,982	3,842	3,713	3,542	3,439	3,322	3,234	3,138	3,058	2,987

※平成26年度までは、各年度の4月1日の実績
 ※平成27年度以降は、推計

4. 平成26年度 香取市中学校 生徒数・学級数 推計 (H26.4.1)

		平成26年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度				平成31年度				平成32年度				平成33年度				平成34年度				平成35年度				平成36年度				平成37年度				平成38年度						
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計											
佐原中	生徒数	200	152	188	540	190	200	152	542	170	190	200	560	167	170	190	527	140	167	170	477	132	140	167	439	128	132	140	400	163	128	132	423	144	163	128	435	118	144	163	425	109	118	144	371	120	109	118	347	135	120	109	364			
	学級数	6	4	5	15	6	6	4	16	5	5	6	16	5	5	5	15	4	5	5	14	4	4	5	13	4	4	4	12	5	4	5	14	5	5	4	14	4	4	5	13	4	4	4	12	4	3	4	11	4	4	3	11			
香取中	生徒数	48	37	55	140	50	48	37	135	43	50	48	141	36	43	50	129	44	36	43	123	44	44	36	124	27	44	44	115	38	27	44	109	41	38	27	106	35	41	38	114	24	35	41	100	32	24	35	91	35	32	24	91			
	学級数	2	1	2	5	2	2	1	5	2	2	2	6	2	2	2	6	2	1	2	5	2	2	1	5	1	2	2	5	2	1	2	5	2	1	1	4	1	2	1	4	1	1	2	4	1	1	1	3	1	1	1	3			
佐原第三中	生徒数	27	26	29	82	41	27	26	94	35	41	27	103	29	35	41	105	29	29	35	93	33	29	29	91	29	33	29	91	22	29	33	84	37	22	29	88	22	37	22	81	25	22	37	84	22	25	22	69	18	22	25	65			
	学級数	1	1	1	3	2	1	1	4	1	2	1	4	1	1	2	4	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	2	1	1	4	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3			
佐原第五中	生徒数	60	72	71	203	66	60	72	198	88	66	60	214	66	88	66	220	64	66	88	218	62	64	66	192	64	62	64	190	53	64	62	179	56	53	64	173	64	56	53	173	51	64	56	171	44	51	64	159	42	44	51	137			
	学級数	2	2	2	6	2	2	2	6	3	2	2	7	2	3	2	7	2	2	3	7	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6			
新島中	生徒数	15	33	24	72	21	15	33	69	34	21	15	70	23	34	21	78	30	23	34	87	16	30	23	69	20	16	30	66	22	20	16	58	20	22	20	62	19	20	22	61	20	19	20	59	25	20	19	64	14	25	20	59			
	学級数	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1
小見川中	生徒数	198	199	188	585	194	198	199	591	196	194	198	588	188	196	194	578	160	188	196	544	169	160	188	517	164	169	160	493	179	164	169	512	148	179	164	491	172	148	179	499	147	172	148	467	138	147	172	457	116	138	147	401			
	学級数	6	6	5	17	6	6	6	18	6	6	6	18	6	6	6	18	5	5	6	16	5	5	5	15	5	5	5	15	6	5	5	16	5	5	5	15	5	5	5	15	5	5	4	14	5	5	4	14	4	4	5	13	4	4	4
山田中	生徒数	91	96	80	267	83	91	96	270	69	83	91	243	61	69	83	213	76	61	69	206	57	76	61	194	68	57	76	201	62	68	57	187	66	62	68	196	56	66	62	184	63	56	66	185	49	63	56	168	57	49	63	169			
	学級数	3	3	3	9	3	3	3	9	2	3	3	8	2	2	3	7	3	2	2	7	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6			
栗源中	生徒数	31	33	32	96	30	31	33	94	29	30	31	90	37	29	30	96	29	37	29	95	28	29	37	94	22	28	29	79	23	22	28	73	29	23	22	74	26	29	23	78	34	26	29	89	25	34	26	85	27	25	34	86			
	学級数	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	2	1	1	4	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3			
計		670	648	667	1,985	675	670	648	1,993	664	675	670	2,009	607	664	675	1,946	572	607	664	1,843	541	572	607	1,720	522	541	572	1,635	562	522	541	1,625	541	562	522	1,625	512	541	562	1,615	473	512	541	1,526	455	473	512	1,440	444	455	473	1,372			

※ 平成27年度以降は、住民基本台帳人口(平成26年4月1日現在)を基に推計。
 ※ 学級数は特別支援学級を含まない。

○学校施設の状況

番号	学校名	校地面積 (㎡)	うち、 運動場 (㎡)	保有面積		普通 教室 数	特別教室数											
				屋 内 運 動 場	特 別 普 通 教 室 等 ・ 普 通 教 室		支 援 教 室	う ち 、 特 別	理 科	生 活	音 楽	図 画 工 作	家 庭	視 聴 覚	コ ン ピ ユ ー タ	図 書 室	特 別 活 動	教 育 相 談
1	佐原小	29,878	12,147	2,226	8,624	28	2	2		2	1	1	1	1	1	1	6	1
2	北佐原小	13,182	9,010	610	2,293	8	2	1		1		1			1	1		
3	東大戸小	12,725	6,647	684	2,410	8	2	1		1	1	1			1	1	1	
4	竟成小	16,853	10,091	691	2,754	8	2	1		1	1	1			1	1		
5	福田小	10,834	7,760	587	1,942	8	2	1		1		1	1	1	1	1		
6	香取小	16,805	7,600	636	2,604	8	2	1		1	1	1			1	1	1	
7	神南小	15,528	4,500	552	1,874	7	1	1		1	1	1			1	1		
8	瑞穂小	10,842	7,165	582	2,915	8	2	1		1	1	1			1	1		2
9	湖東小	13,364	6,473	708	1,939	6	1	1		1		1			1	1	1	
10	新島小	14,933	8,326	575	2,316	7	1	1		1	1	1			1	1		
11	津宮小	12,696	6,480	564	2,223	7	1	1		1		1			1	1	1	
12	大倉小	11,360	5,902	603	1,649	7	1	1		1	1	1				1		1
13	小見川中央小	20,669	8,291	936	6,978	19	2	2	1	3	1	2			1	2	7	1
14	小見川東小	27,029	13,837	859	3,482	8	2	1		1	1	1	1	1	1	1		1
15	小見川西小	19,332	9,741	820	3,600	8	2	1	1	1	1	1			1	1	4	
16	小見川南小	15,928	5,321	704	2,108	8	2	1		1	1	1			1	1		
17	小見川北小	25,888	8,946	919	3,798	9	1	1	1	1	1	1			1	1	2	
18	八都小	14,472	7,637	900	3,346	7	1	1	1	1	1	1			1	1	2	1
19	八都二小	13,927	9,481	839	1,906	7	1	1		1		1			1	1		
20	府馬小	22,975	10,953	833	3,115	8	2	1		1	1	1	1	1	1	1	2	
21	一山小	15,763	7,305	857	2,202	6		1		1	1	1			1	1		
22	山倉小	14,869	6,197	875	2,085	8	2	1		1	1	1			1	1		
23	栗源小	19,768	14,558	755	3,210	7	1	1		1	1	1			1	2	2	1

番号	学校名	校地面積 (㎡)	うち、 運動場 (㎡)	保有面積		普通 教室 数	特別教室数													
				屋 内 運 動 場	教 室 ・ 普 通 特 別 教 室		支 援 教 室	う ち 、 特 別	理 科	音 楽	美 術	技 術	家 庭	外 国 語	視 聴 覚	コ ン ピ ユ ー タ	図 書 室	特 別 活 動	教 育 相 談	進 路 資 料 ・ 指 導
1	佐原中	29,585	20,908	2,291	8,656	17	2	4	1	2	1	2				1	1	3	2	
2	香取中	21,294	10,946	1,198	3,711	7	2	2	1	1	1	1				1	1	1	2	
3	佐原第三中	26,453	19,627	787	2,855	4	1	1	1	1	1	1			1	1	1	2	1	
4	佐原第五中	28,306	13,691	1,221	5,300	9	2	2	1	1	1	1			1	1	1	5	1	
5	新島中	31,373	26,528	747	3,003	4	1	1	1	1	1	1				1	1	1	1	
6	小見川中	68,219	31,026	2,616	9,256	19	2	4	3	2	4	2				1	1	5	4	
7	山田中	90,121	39,798	1,501	6,259	11	2	2	2	1	2	2			1	1	1	3	1	
8	栗源中	31,459	8,249	2,055	3,236	5	2	1	1	1	1	2				1	1	3	1	

※平成26年度公立学校施設台帳より